

2009 年度

# 活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

## 2009年度 日本カトリック信徒宣教師会 活動報告

### 1. 2009年度の動きと成果（概要）

今年度もカンボジア、タイ、東ティモールの3カ国において、それぞれの活動を深め発展させることができた。

カンボジアでは7月に現地語語学研修を修了した2008年度派遣者の林愛子、濱田麻里が活動を開始した。林愛子は、任期を終了した重富浩子からタオム村およびクナ・トゥメイ地区での子どもプログラムを引き継ぎ、シムリアップ教会の活動コーディネートや会計業務にも協力し、地域のカトリック共同体づくりに積極的に参与した。濱田麻里は礼拝会を母体とするNPO 法人レナセールがシムリアップに設置した女性センターに8月より配属された。DV(家庭内暴力)や人身売買などの危険から女性たちを保護し自立を支援する活動であり、JLMM としても新たな分野への取り組みとなった。

ステンミエンチャイ地区では7月にゴミの收容範囲を超えたためゴミ集積場は閉鎖となったが、集落の移動はなく、住民のニーズもあるため子どもの教育活動と屋台貸出プロジェクトは継続。

コンボンルアン水上村では今年度より新規に無料診断クリニックを開設し、妊婦や乳幼児の健康チェックを開始した。識字教室の成果も上がっており、今年度は過去最多の41名の児童が公立小学校に入学することができた。また公立小学校校舎の修復や図書館設置を支援、地域教育行政との連携を強化した。浄水プロジェクトは地域の誰もが水を購入できるようシステムを変更し月平均288本の供給数となり、より多くの住民が安全な水を確保できるようになった。

2008年度派遣者2名がシムリアップに配属されポンペン常駐者数が減ったため、事務所兼住居を移転した。

タイでは、DISAC との契約を終了し、9月より RTRC(後述)との契約となり、女性の自立支援を中心に活動を展開することになった。その中で、伝統工芸の保存や活性化のために女性グループ「パラン・チャイ・プーイン」を設立し、少数民族の女性たちを対象としたワークショップやセミナーを積極的に開催している。日本語教育、YPD とのカレン族のためのトレーニング、HIV/AIDS シェルター・バーンサバイ、難民キャンプや避難民児童のための小学校支援など、幅広い活動を展開した。

東ティモールでは特定非営利活動法人東ティモール医療友の会(AFMET)に派遣され、地域の保健プログラム SISCa の保健ボランティア養成を支援、7月からは本格的にトレーニングを開始した。16村落において薬草園が設置され、苗植えを完了した。住民コミュニティによる石鹸づくりも成果が上がっており、年間9,700個の石鹸を販売・普及することができた。今年度は新たに学校保健プログラム、他県(リキサ県)での保健ボランティアトレーニング(BESIK プログラム)、さらに CLTS(コミュニティ主導の全村環境衛生活動)を開始した。CLTS はトイレ設置のための新手法であり、住民のトイレ使用率が3%から67%へと飛躍的に伸びており、100%を目指している。また今年度は AFMET 設立10周年を迎え記念式典を開催、300名を超える住民参加者とともに祝った。

日本国内での活動は、研修を実施しなかったことから、積極的な広報活動及び派遣候補者募集活動のため、福岡・長崎・大阪・名古屋・東京の全国5会場にて活動報告と派遣候補者募集説明会を実施した。また、支援者層の拡大に向け、平日企画として「午後のバラエティータイム」を月に1回開催した。アジア映画上映、講演、ボランティアなど、JLMM のネットワークを通じた様々な企画展開の可能性を開拓することができた。特に、8月に実施した「夏休み学生ボランティアデー」は学生やツアー参加者が企画に関わる開発教育イベントとして、成功を収めた。また、今年度は写真展を1週間の会期で開催し、ゴスペルクワイアを再結成し定期的な練習とコンサートを開催するなど、国内イベント企画に積極的に取り組み、支援と協働の輪を

広げることができた。

対外的には、アジア司教協議会連盟 (FABC) 宣教局主催の第1回アジア宣教団体会議、日本カトリックボランティア連絡協議会全国大会、各教区平和旬間行事に参加し活動報告するなど、アジア、全国、教区各レベルにおけるカトリック教会の連携や支援の呼びかけを行うことができた。また「国際協力 NGO センター (JANIC)」の正会員となり、日本社会における国際協力 NGO の一員として、他団体との情報共有・連携・共同行動などの動きが加速した。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2010年3月31日現在の派遣国と派遣者 カンボジア…4名、タイ…1名、東ティモール…2名 計 3ヶ国 7名
2010年3月31日現在の会員数 2,933(個人・団体) 内訳 個人… 1,526、教会… 327、修道会… 755、学校… 183、その他… 142

## 2. 各国活動

### (1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教者の派遣が開始された。バタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン省にて試験農場、コンボンズプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通してのコミュニティー開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバタンバン知牧区内プルサート省コンボンルアンの上水村における住民との関わりを開始した。

また、2007年6月より、シェムリアップ省クナ・トゥメイにおいてカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

さらに、2008年7月より、タオム村でカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始。2009年7月より、シェムリアップ省にあるレナセールが行う母子シェルター活動支援を開始した。

2002年度より浅野美幸(横浜教区)、2005年度より高橋真也(新潟教区)、2006年度より重富浩子(大阪教区)、2008年度より林愛子(京都教区)、濱田麻里(東京教区)を派遣した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野が担当し、トンレサップ湖上の村コンボンルアンの活動を高橋が担当、シェムリアップ省にあるクナ・トゥメイ・センター、タオム・子どもセンターでの活動を重富、林が担当、レナセールでの活動を濱田が担当した。なお、濱田、林は2009年6月まで語学研修を行った。

2009年12月31日重富浩子が任期を満了し、派遣を終了した。

## I ステンミエンチャイ地区ゴミ捨て場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

### 1. 対象地域と地域概要

#### プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場では、1965年からプノンペン市内のゴミが分別されることなく捨てられている。ルッセイ村では、それらのゴミの中からリサイクルが可能な有価物を拾い集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。住民の多くは、以前地方で農業を営んでいた人たちで、灌漑用水の不足、農業技術の遅れなどにより、家族を養うための十分な食料や生活物資を購入するための現金を得ることが出来ずに都会に出てきた人たちである。

ここでは、生活環境不良のため栄養失調や皮膚疾患が多くみられる。また、彼らの多くはお金が必要ときに高利貸しからお金を借りるため、借金に苦しむ。子どもは家族を助ける労働力とみなされ、親は子どもの教育にあまり熱心ではない。子どもたちも家族を助きたい思いからゴミ集積場で働く。小学校に入学できても、基礎的生活習慣や能力不足により落第や退学する子どもが多くいるのが現状である。

2009年7月にステンミエンチャイのゴミ集積場は、ゴミの収容範囲を超えたため閉鎖され、プノンペン市の全てのゴミはダンコー地区にできた新ゴミ集積場に集め捨てられている。政府は住民たちが引き続きダンコー地区のゴミ集積場で有価物を拾うことを許可したが、近隣の村々に家を建て移り住むことを禁止しているため、住民たちは以前から住んでいるルッセイ村にそのまま留まり、そこから毎日ルモー（乗合バイク）で通勤している。住民たちの移動がないため、JLMM ではステンミエンチャイのゴミ集積場が閉鎖されても、活動を継続。

活動資金の一部は、大阪大司教区「カンボジア教会の日」、ドイツ「Die Sternsinger」から支援を受け実施した。

### 2. 活動概要

#### 1) 子どもの家活動

貧困や家庭の事情で小学校に行っていない子ども、及び落第や退学が多い対象地域での就学前の子どもたちへの幼児教育、衛生教育、識字教育を実施し、基礎的社会能力や知的能力を学び取れる経験の場を提供する。「子どもの家」が小学校への架け橋になるよう月曜日から金曜日の午前中、能力別に分かれた三クラスで、カンボジア人スタッフ1名の他に子どもの家の先生2名、アシスタント3名を雇用し活動を行った。2009年度は30名の子どもたちが公立の小学校に入学。生徒数は常時70～90名。

##### a) 大きな子どもの家

対象年齢:クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童20名。

##### b) 小さな子どもの家

対象年齢:クメール語子音の読み書きがわからない4歳から8歳の児童50名。

##### c) 小さな小さな子どもの家

対象年齢:3歳から5歳の乳幼児20名(遊びやパズル中心)。

#### 2) 栄養プログラム

豆乳とサンドイッチを「子どもの家」での授業終了時に子ども達に提供していたが、金融危機の影響で日本の支援者(個人)からのサンドイッチの配給が終了となったことに伴い、豆乳配給も合わせて終了した。

かし、保護者からの強い要望により2009年4月より豆乳に代え、栄養価の高い食事を配給することとした。スープとご飯、おかゆ、またはご飯と煮魚など子ども達が飽きないような献立とし、週に五日間、子どもたち全員(70人～90人/日)に食事を提供した。

### 3) 医療サービスと家庭訪問

今年度は17件の緊急援助を行った。貧困家庭の家の修理(2件)、親が病気や怪我で仕事に就けない家庭にお米や卵などの支給(12件)、その他病院までの交通費や治療費等を支援した。家庭には医薬品が無いため、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと指導も行った。また、貧困家族80世帯を対象に月2回の石鹼、洗濯用洗剤、虱石鹼、皮膚疾患予防石鹼を低価格で販売した。

### 4) 移動図書館プログラム

カンボジアで活動する日本の NGO『SVA (社)シャンティ国際ボランティア会』に依頼し、移動図書館プログラムを子どもの家で月2回実施した。2008年1月より実施事業。

### 5) 屋台プロジェクト

ゴミ集積場で生計を立てている人たちに屋台の貸し出しを継続して行った。『Phcuap Kdei Sankhum』「希望をつなぐ」という意味の協同組合ロゴマーク入りの屋台を貸し出し、販売員には材料を低価格で販売し、販売道具、自転車、屋台の修理等の支援も行なう。夏休みで学校が長期休暇に入ったため、屋台販売の中心のお菓子「ロッチェ」が売れなくなり2名がゴミ集積場に戻った。

今年度は新たに女性が1名参加し、現在4名が屋台で生計を立てている。猛暑では子ども達が冷たいジュースを好むため、カキ氷やジュースの販売も始め売り上げを伸ばしている。

### 6) その他

- a) 月一回開催される「レイミッションナリーの集い」に出席
- b) カトリック NGO 会議に出席
- c) プノンペン教区主催「パウロ年終了記念ミサと集い」に参加(6/27)
- d) 司教叙階式出席(3/20)
- e) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- f) 公立小学校、教育省、NGO など地域機関との連携
- g) 子どもの家クメール正月ゲーム大会(4/10)、子どもの家卒業式(10/2)実施。
- h) カトリック学生寮の男子大学生たちが子どもの家においてボランティアでクリスマス会を開催(12/18)
- j) 教育省からのアグリーメント取得のための書類作成、教育省訪問等
- j) ドイツ「Die Sternsinger」助成金の子ども家における運用と決算報告(5月、11月)
- k) 外務省、教育省への月間活動報告、決算報告。
- l) ENJJ(大使館、NGO、JICA、商工会議所の連絡会)全体会議に出席
- m) 34組のベ314名のステンミエンチャイ訪問・見学の受け入れ

## II プルサート州水上村コンボンルアン 生活向上支援

### 1. 対象地域と地域概要

## プルサート省水上村コンポシルアン

水上村コンポシルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では1,600世帯、6,000人の人々が船の家で生活しており、約70%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水をそのまま利用。湖水は、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せない、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題がある。

2001年からJLMMカンボジアと住民の協力の元、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2006年6月より高橋が活動している。

## 2. 活動概要

### 1) 保健衛生プログラム

#### ① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続している。水浴びプログラムに通ってくる子どもたちの湿疹や虱などの症状は、年々少なくなっている。また、JLMMカンボジアで準備している湿疹用石鹸、虱用石鹸を自ら買い求め日常的に使用するようになってきている。参加人数は季節によって異なるが、平均して50人程度。識字教室の先生他、教会の青年グループもこの活動を手伝ってくれるようになっており、協力の輪が広がって来ている。

#### ② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、難産の手術支援、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと共に協力している。関わった病人は、栄養失調の幼児、口蓋裂、肝臓の腫瘍、子宮筋腫、HIV、目の病気、腸炎、火傷、結核、デング、白血病、肝炎、首や耳、足などの腫瘍、インフルエンザ、難産、手足の麻痺、心臓病など様々であった。病人支援数59名、71件のケースと関わった。

#### ③ ホームケアプログラム

主に病人支援に関わった病人(病院から帰って来た病人など)の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族、家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

### 2) 母子保健に関する活動

2009年度からは従来までの訪問活動を発展させ、妊婦や乳幼児の健康チェックを主とした無料診断クリニックを開いた。2009年6月より、毎週土日の午前9時から11時までの2時間、妊婦や乳幼児へのケア(村の健康センターで受けられるサービスと同様のもの)を、雇っている産婦人科の医師が行った。また一般の病人の診療もあわせて行った。母乳不足の場合は粉ミルクの支援を行った。

今年度にはのべ83日間実施。クリニックを訪れた妊婦は109名、乳幼児(5歳以下)は155名、それ以外の病人は507名。粉ミルク支援は計7回実施した。

### 3) 識字教育プログラム

教会が運営する識字教室では、ベトナム人の子どもにカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えている。JLMM カンボジアは、その教室のカリキュラムの準備、教材の支援などを行っている。2010年3月末日現在、カンボジア人先生1名、ベトナム人先生1名の計2名がカンボジア語の授業を行っている。授業は午前4クラス。通っている生徒数は1年平均して60名程度である。また午後ベトナム人の先生2名がベトナム語の授業を行っている。生徒は40名程度。

週に一度、授業後に先生とスタッフを含めたミーティングを行い、カリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。また、幼稚園向けの研修会などにも先生が積極的に参加した。

2005年度から「日本カトリック海外宣教者を支援する会」の援助による通学船で、公立小学校への、子どもの送迎を始め、大きな成果を挙げている。2009年10月の新学期に過去最多の41名の生徒を識字教室から公立小学校へ送り出し、現在も大多数の生徒が継続して通っており、中途退学者は少ない。保護者と子どもを交えた、通学船使用についての説明などを含めたミーティングも年に2回行っており、また生徒に何か問題があると、家庭訪問や公立小学校訪問を行っている。

通学船の維持費を皆で協力して負担するため、2009年1月から、通学船利用者より、月2.5ドルの利用料を徴収した。

2007年3月より「日本カトリック海外宣教者を支援する会」及び「横浜教区カトリック由比ガ浜教会」の援助による通学船で、識字教室に通ってくる生徒の送迎も始め、これも順調に稼動しており、大きな成果をあげた。

今年度は年中行事(クリスマス会、卒業式、大掃除等)を先生、生徒と共に準備し、実施。協力の輪が広まった。また、卒業生を連れてバスでバタンバンへ遠足も行った。

### 4) 家庭訪問調査

病人訪問や生徒の家族訪問にあわせて、家族構成や生活状況などのインタビューを合わせて行った。

### 5) 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを継続実施。栄養価の高い食事を提供し合わせて栄養指導を行った。水浴びプログラムの後、週交代で豆乳と野菜入りのおかゆを配給した。

### 6) 奨学金支援(里親制度)

2007年10月から奨学金を里親制度に切り替え、2名の学生に対し、日本の支援者が里親となり奨学金を支援した。1名はコンポソルアン教会識字教室で勉強するために遠方からきた子どもで生活費を支援。もう1名はバタンバンで縫製を学ぶ生徒の生活費・教材費を奨学金として支援した。

今年度、今まで支援して来た里子への支援が全て終了したことにより、新に2名の兄妹の支援を開始。どちらもバタンバンにあるシスターの学生寮で学ぶ中学生である。

### 7) 公立小学校支援

2009年3月より、公立小学校への支援として、図書室の設置及び学校修理を開始。どちらも学校長より

支援要請があり、検討の結果、支援を決定した。図書室設置のために必要なものを全て揃えてプレゼントするという支援の形をとった。また老朽化が進んだ床や壁は、生徒たちにとって危険であったため、修理できるところは全て修理を行った。今年度の初めに工事は完了し、図書室設置に500ドル、学校修理に1,600ドル、合計で2,100ドルの支援を行った。

#### 8) 浄水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを始めた。住民グループによる定期ミーティングでの話し合いで、2009年1月より今まで行っていたグループ内による販売を中止し、住民誰もが浄水を購入できるように変更した。水を購入する家族が、浄水の製造量に対し少なかつたため供給先を拡大した。これにより、多くの人々が安全な水を手に入れることが出来るようになり、2010年3月末日現在、前年度よりも100ボトル(1ボトル=20リットル)以上も上回る、月の販売ボトル数は平均で288ボトルの実績をあげた。

今年度を持って、当該事業資金支援助成金団体「公益信託 今井記念海外協力基金」との連携期間が終了した。

#### 9) その他

- a) アルペセンター(バットンバン教会内障害者施設)との連携 腕に障害を持った子の面談(2009/5/31)、アウトリーチ受け入れ(2009/7/3)
- b) スペイン人の医学生へのメディカルミッション受け入れ(7/14-17)
- c) 識字教室大掃除(9/23)、識字教室卒業式(9/25)、卒業生バットンバンへ遠足(9/26) 公立小学校入学手続き(9/28)、
- d) 「日本カトリック海外宣教者を支援する会」への助成金申請(12月)
- e) NPO法人「芝の会」への助成金申請(12月)
- f) 「財団法人 地球市民財団」への助成金申請(1月)
- g) タイのパタヤで行われた FABC 主催『Mission in Asia』のミーティング参加(1/24-26)
- h) バットンバン教区パストラルミーティングに参加、活動紹介(10/20-23)
- i) スペイン人とバットンバン教区病人受け入れ施設のメディカルミッション受け入れ(2/22-23)
- j) 識字教室と教会クリスマス会 クナイロミア教会青年35名受け入れ(12/19-20)
- k) 教育省からのアグリーメント(活動許可)取得のための書類作成、州の教育省訪問等(11/25-12/14)
- l) 歯科医師(平山医師) 歯磨き指導受け入れ(10/25)
- m) バットンバン教区のスペインの団体への助成金申請作業の手伝い(2月)
- n) コンボンルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング
- o) コンボンルアン教会典礼の準備、協力
- p) 公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携
- q) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- r) 横浜教区カトリック藤沢教会「カンボジア福祉基金藤沢」の運用、活動報告
- s) 各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告
- t) 各 NGO 機関、施設の活動見学(School Aid Japan、Sister of Providence の施設、バットンバン州立孤児院、HOPE 日本事務所)
- u) ENJJ(大使館、NGO、JICA、商工会議所の連絡会)の農村農業分科会(飲料水がテーマ)に参加



v) 人事

退職:プロジェクトアシスタント Ra (2009年11月)

### Ⅲ シェムリアップ教会支援

#### バンティエンチェイ省・タオム村

##### 1. 対象地域と地域概要

タオム村はシェムリアップから車で2時間ほどの所に位置する村で、100年以上前に宣教師が建てた立派な教会がある。しかし戦争、内戦のため、教会は廃墟と化し、砲弾の痕や虐殺された人たちの血のあとなどがあり、多くのカトリック信者たちもこの時に殺されたり、村から逃げたりしたと言われ、長く関わりが途絶えていた。2002年にカトリック神父が村人からタオム村に廃墟と化した教会があることを聞き、神父、シスター方、シェムリアップ教会の信徒達で教会の周辺を整地し、2004年にヘリ神父が子どもセンターを設立した。

村には電気がなく、安全な水の確保も困難である。生活用水は村を流れる褐色の川の水で、水場は牛や豚の水浴びや、動物の屠殺場でもある。また、近隣住民は水浴びや洗濯場でも利用している。こうした衛生状態の中、子どもも大人も胃腸病を患うことが多い。仕事も農業以外はほとんどなく、村人の生活は過酷な状態にある。市場も近隣にはなく、小さな商店で食料などを購入するが、季節によっては生鮮野菜が入手できず、食糧入手にも困窮する。

2003年に、バタンバン知牧区キケ司教が教会をカトリック教会の所有とする代わりに小学校を村の中に建設。現在、ほとんどの児童がこの学校に通う。しかし教師達は休むことが多く、十分な授業が行えておらず、生徒の中には自分の名前が書けない子どもがたくさんいるのが現状である。子ども達の多くは家庭の仕事を手伝い、一日に何往復もする水汲み、豚の飼料づくり、餌やり、牛飼い、掃除、洗濯、炊飯、薪割り、皿洗い、兄弟姉妹の世話などの家事をこなす。

2004年11月こうした児童を対象に、子ども達に楽しい時間を提供したいという神父の意向により、子どもセンターが設置された。

現在、タオム村では162家族。785名が生活している。

2010年3月末現在、林が2010年1月より前任者が行っていたコーナー遊びを引継ぎ、毎週月曜にタオム村に行き、3日から4日間村に滞在し、活動を行っている。

##### 2. 活動概要

###### タオム・子どもセンター

###### ①コーナー遊び

センターの目的は「子ども達に楽しい時間を提供する」こと。様々な遊び(コーナー遊び)を提供し、子ども達は自分たちの都合のよい時間に来て、自分でやりたいことを選び時間まで遊ぶ。

○対象: 幼児から小学校6年生

○曜日・時間: 毎週月～水曜あるいは木曜 午前8:00～10:00 午後2:00～4:00

○活動内容: パズル、積み木、おままごと、絵本、塗り絵、絵画制作、木のおもちゃ、お人形遊びなど。

帰宅時には全員で片付けを行う。コーナー遊びの他、ゲームや体育遊びをし、終了時に全員で整列し歌を歌ったりお話をしたり、絵本の読み聞かせなどを行ったのち、食前の聖歌を歌い、一人一人におやつを配布、帰宅。

ほとんどの子どもは色塗りが大好きで、色塗りした作品は派遣者が預かり、数ヶ月に一度作品をまとめて一人一人に返却している。月に一度、はさみやのりを使った製作活動を実施。子ども達が作った

製作物をセンター内に飾り、子ども達の学習意欲向上につなげている。一日2時間という短時間だが、家事に翻弄される子どもにとって、センターは楽しめる貴重な空間となっている。一方、センターに子どもたちが来ることによって、家庭では大事な働き手を失うこととなるため、家庭によってはセンターに子どもを通わせない親も少なくない。

## ②幼稚園の運営

タオムには幼稚園がなく、ほとんどの村人が農業に従事しており、農作業に忙しく、子どもの教育に熱心でない親も多い。また、小さい幼児も家庭でほおっておかれるケースも多くみられる。そこで、2010年3月より幼稚園活動を開始した。子どもセンターで幼児教育の教員養成コースを受けたタオムのスタッフ2名が指導にあっている。

○対象： 3～5歳の子ども、現在 42 名

○曜日・時間： 月曜～金曜 午前8:00～10:00 午後2:00～4:00

## ③図書館の運営

2009年12月にシンガポールの支援で図書館を設置。クメール語の本以外に英語の本もあり、タオムのスタッフ1名が司書として勤務、貸し出しを行っている。本の取り扱いや、3年生以上を対象にして、物語を読んでその内容を答える試験にも活用した。

○曜日・時間： 月曜・水～土曜 午後1:30～5:00 火曜(仮)午後2:30～5:00

## ④ユース(13歳～19歳)セント・ビンセンシオ・ポールのグループ活動

13歳から19歳くらいの青年層を対象としたグループを設置し、38名のメンバーが参加した。

毎週月曜17時から18時にミーティングと活動、火曜17時から18時に要理を学習。カンボジア人スタッフ(カテキスタ)が中心となり、タオム・子どもセンター活動の補助として加わっている。祈りから始まり、活動報告、キリスト教の勉強などを行い、祈りで終わる。タオム村に外部からゲストが来た際には、宿泊場所の整備など彼らが行った。

毎週日曜日、ミーティングや家庭訪問、教会の掃除などの活動も実施した。

## ⑤キリスト教の勉強(カテケージス)活動

毎週月曜日16時から17時 対象:洗礼受洗者21名

毎週火曜日16時から17時 対象:10～15歳の子ども

毎週火曜日15時から16時 対象:隣村のオプトール村とコンプライム村から30名

毎週火曜日17時から18時 対象:15～20歳の洗礼志願者

毎週日曜日 対象:初聖体の勉強子ども8名 (タオムのスタッフ担当)

## ⑥既婚者対象の活動

毎月一度、派遣者を含めた3名のスタッフが分担し、宗教や道徳的なことを村の大人たちに伝える活動や、レクリエーション活動などを実施。派遣者はレクリエーション活動を担当。

## ⑦その他

おかゆプログラムの実施。家庭訪問の実施。

## シエムリアップ省クナ・トゥメイ村

### 1. 対象地域と地域概要

クナ・トゥメイ村は、ポルポト時代にタイの難民キャンプに避難していた帰還難民により作られた村とされている。現在、村には約760世帯、3,500名以上の人が住んでいる。貧富の格差が激しく、高価な自転車に乗って学校に通う子どももいれば、学校に通えない子どももいる。また村内では賭博が公然と行われ、賭博のために家庭崩壊している家族も少なくない。2002年、村内には教会によって「子どもセンター」が設置された。2010年1月より前任者が行っていたコーナー遊びを引継ぎ、活動を展開した。

### 2. 活動概要

#### 1)クナ・トメイセンター

##### ①子どもセンター

センターの目的は、子どもに楽しい時間を提供すること。毎週金曜日の午前と午後コーナー遊びを提供している。

○時間 毎週金曜日

午前9:00～11:00 午後2:30～4:30

○コーナー遊び

パズル、積み木、おままごと、絵本、塗り絵、絵画制作、木のおもちゃ、お人形遊びなど。

帰宅時には全員で片付けを行う。コーナー遊びの他、ゲームや体育遊びをし、終了時に全員で整列し歌を歌ったりお話をしたり、絵本の読み聞かせなどを行ったのち、食前の聖歌を歌い一人一人におやつを配布し帰宅する。

ほとんどの子どもは色塗りを好む。センターにいる間、ずっと色塗りをしている子どもも珍しくない。月に一度、はさみやのりを使う製作活動を実施。子ども達が作った製作物をセンターに飾り、学習意欲向上の一助としている。週に一日、2時間という短い時間だが、子ども達はとても楽しみにしていて、センターは子どもが楽しめる貴重な場所となっている。

##### ②おかゆプログラム

毎週日曜日午後2時から子ども達をセンターに集め、宗教の話や色塗り、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかゆを配布。子ども達は100名ほど集まり、おかゆ作りは地元の中高生やシエムリアップ教会の中高生が作り、センターは青少年育成にも役立っている。

#### 2)その他

a) シエムリアップ教会の会計(2009年7月～12月)。会計手伝い(2010年1月～)。ミサ献金の計算。

b) シエムリアップ教会、ゲスト受け入れ手伝い。ギフトショップやミサの準備など。

c) 毎土曜日シエムリアップ教会の掃除・カテキズムに参加

d) プノンクラオム、ルカ・ジャパンの内科・歯科検診見学(8/20、9/1)

e) バッターバン教区青年ミーティングに参加(8/25～28)

f) バッターバン教区パストラルミーティングに参加(10/21～22)

g) タオムでのスペイン人の医学生のメディカルミッシ

## IV. NPO 法人レナセール「カンボジア女性シェルター事業」

### 1. 対象地域と地域概要

#### RWW シェルター(プノンペン市内)

「RENACER, Walk with Woman」(日本法人は NPO 法人「レナセール・女性とともに歩む会」)(RENACER はスペイン語で『新しく生まれる』の意味)はカンボジア社会の中で脆弱な立場に置かれ、その人格の尊厳が危うくされている女性(その同伴児を含む)、また様々な理由から自立が困難、行き場が無い女性(クライアント)を保護し、彼女たちの自立を支援することを目的に設立された。特に、暴力、性的売買、性的虐待、産前産後、レイプ、ホームレスの女性などの女性被害者を保護している。

2007年8月よりプノンペン市内でシェルター(一時保護)活動が展開された。当シェルターは入居期間6ヶ月という期限の中で、まずは女性たちに安全な場所を提供し、他団体との連携のある職業訓練コースに通うことができる。また同伴児への就学の提供も実施している。

このような女性たちは、自分に起こった被害を自分への非、恥ずかしい過去・傷として受け止め、公にすることや詳細・過去を話したくない。シェルターでは女性一人一人の人格を尊重しながら女性たちを一時的に保護し、心や体のケアを含めてスタッフと共に一緒に歩み、再出発していくことを目指している。

2009年7月13日より7月31日まで研修を兼ね濱田が活動に参加した。

#### RWW センター(シェムリアップ省内)

2009年7月よりシェムリアップ市内で女性自立支援センター活動が展開された。シェムリアップ女性センターでは一時保護の他に、レナセールでの職業訓練や社会復帰支援を目指している。

2010年3月末現在、2ケースの女性を支援している。(同伴児含め計4名)

2009年8月6日より濱田が活動に参画。

### 2. 活動概要

スタッフは日勤/夜勤2体制交代で運営されている。

2010年3月末現在、スタッフ7名(うち日本人2名)で構成されている。

#### 1) クライアントの世話

##### ① 食事作り

現時点ではセンターに料理人を雇っていないため、日勤のスタッフが市場へ買い物に行き、昼食(夕食分を含む)を作る。また夜勤のスタッフは朝食を作る。

##### ② 面接・インタビュー(不定期)

クライアントとの時間をもち健康状態、不安や悩み、今後の希望などを聞きだし関係構築を行う。また将来に活かせるように努める。

##### ③ 同伴児に対する保健指導

衛生面において確かな知識が無いため、不衛生に生活していることが多い。そのため保健授業として手洗い、サンダル着用、マラリア対策、虱対策などを指導した。また長期的に洗髪を実践指導、虱用石鹸を購入し洗髪、散髪を通し衛生に関して意識向上を図った。

#### 2) 施設の管理

##### ① 施設の掃除と、クライアントへ貸し出す物品や無償支給する物品の在庫管理

## ②植林プロジェクト

2009年8月12日より実施。日本からの寄付のあった119本の樹木をセンター内に植栽した。マンゴーやパイナップル、ニームの木などを植林。また支援者に報告するため、一本一本の写真撮影、また定期的に行っている。

## ③ソーラー導入／管理

2009年9月14日より日本にある NGO 団体からの寄付によりソーラーパネルシステムを導入。数が充分ではないため、夜一定の時間だけの使用であるが、使用および管理している。

## 3)クライアント受け入れ準備

### ①書類作成

クライアントが入居時に記載、またスタッフがインタビュー時に使用するセンター公式の書類を再作成。

### ②自立支援策

プノンペンシェルターにて自立が困難だった女性を掃除婦としてシェムリアップセンターにて雇用。

今後入居するクライアントが自立できるよう、またセンター内で少しでも現金収入が得られるよう、いくつか支援策を実施。特にココナッツを使ったカンボジアの伝統的な菓子作りは定期的に製作、センター訪問客へのプレゼントや、プノンペンシェルターや訪問客に販売した。しかし、出来上がりが安定していないこと、保管方法の問題などの理由から現在は製作を中止している。そのほか、しおり作り、ミサンガ作りを試験的に行っている。

## 4)スタッフのための研修実施

### ①スキルアップ向上

プノンペンシェルターにて講師を招いてプノンペンにて研修実施(定期的開催)

プノンペンシェルターにてシェムリアップセンタースタッフが現地研修(半月ずつ)

### ②礼拝会 Sr.Celine による週 3 回の英語授業受講(2 月より)

## 5)その他

a) センター内にて Kike 司教様司式ミサ及びオープニングセレモニー(8/21)

b) プノンペンシェルターのスタッフ不足のため臨時出張(9/24～10/5)

c) 他団体(CAMBODIA TEA TIME／セントウール・ドゥ・アンコール／sara)視察(8/3, 2/9)

d) MC(神の愛の宣教者会)シスターの施設にてボランティアに参加

e) シェムリアップ教会によるフルーツ配り病院支援に参加

f) バッタバン教区パストラルミーティングに参加(10/20～22)

g) シェムリアップセンターにてクリスマス会(12/22)

h) 日本語教師ボランティア

i) 27組の訪問客をセンター内案内

j) 日本所属教会及び支援者等に活動報告(毎月)

## V. その他、事務活動

1) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学

下記の日程で JLMM 関連カンボジアスタディーツアーを受け入れた。

2009年7月18日～27日	日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース
2009年7月30日～8月9日	JLMM 夏のスタディーツアー
2010年2月7日～20日	専修大学 SIA サークルカンボジアツアー
2010年2月22日～3月4日	JLMM 春のカンボジアスタディーツアー
2010年3月5日～13日	横浜教区青年ツアー

ステンミエンチャイ： 上記以外に31組のべ279名の見学・取材を受け入れ

コンポンルアン： 上記以外に15組のべ43名の見学・取材・宿泊を受け入れ

## 2) 日本の修道会との連帯

「ショファイクの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」と活動や事務的内容等のミーティングを開催。査証申請の代行等を行った。

## 3) ラチャナ・ハンディクラフト・バットンバンの支援

ラチャナ・ハンディクラフトの商品を JLMM オフィスにて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業等を行った。

## 4) 東京事務局との連絡調整

2009年11月30日～12月9日	シエムリアップにおいて個人面談、分かち合い
2009年12月7日～12月9日	プノンペンにおいて屋台プロジェクトの協力

## 5) 黙想会・祈りの集い

2009年5月8日～12日 ベトナムにあるベネデクト修道会において黙想会を実施した。  
また、月に一度、プノンペン事務所にて祈りの集い及び活動報告を行った。

## 6) 一時帰国

高橋真也	2009年8月19日～9月13日
浅野美幸	2009年9月15日～10月14日
重富浩子	2009年9月25日～10月8日

## 7) 帰国

2009年1月26日 重富浩子が任期を終え帰国した。

## 8) 一時帰国報告会

### ① 高橋真也

2009年8月23日	新潟と習志野の青年合同練成会(新潟教区カトリック新潟教会)
9月 4日	シスター向け報告会 聖パウロ女子修道会(乃木坂)
9月 5日	カノッサ修道会 若者の集い(名古屋)
9月 6日	名古屋教区カトリック南山教会

9月12日 Cambodia day(六本木)  
9月13日 横浜教区カトリック藤沢教会  
9月13日 横浜教区カトリック菊名教会

②浅野美幸

2009年9月20日 横浜教区カトリック菊名教会  
9月26日 フランシスコ会聖ヨゼフ修道院(東京・六本木)  
10月 3日 仙台教区カトリック弘前教会  
10月 3日 仙台教区カトリック五所川原教会  
10月 8日 シスター向け報告会 聖心侍女修道会(東京・五反田)

9)その他

- ・関係各位へのクリスマスカード送付
- ・プノンペンオフィス移転(12月)

## (2) タイ

タイへの派遣は、2000年に一年間のインターンとして、本橋奈々子(東京教区)をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれのサンカンペン(ダイサック:Diocesan Social Action Center:教区社会活動センター)に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を2004年にチェンマイ教区 DISAC へ派遣。DISAC と協働し、少数民族支援(主にカレン族)のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行い、2006年に任期を終了。

2005年2月17日、日笠山万希子(2004年度・福岡教区)を同 DISAC に派遣。(2008年3月16日任期終了)

2007年3月20日より松本和歌子(2006年度・福岡教区)を派遣。ラフ族の村への訪問活動などを行った。また、サンカンペン公立高校において日本語教師としてタイ人高校生との関わりを持った。2009年9月19日 DISAC との契約を終了し、2009年9月20日より RTRC(Research and Training for Religio - Cultural Community = 諸宗教・文化的共同体のための調査研究所)に配属。RTRC では女性の自立支援を中心に活動を行っている。

## I RTRC 関係活動

### 1. 対象地域と地域概要

チェンマイ教区 DISAC の歴史は、宣教師たちが少数民族対象の活動を始めた1931年にまで遡るが、正式に設置されたのは1975年で、人的開発のための社会活動を目的としている。CCTD(タイカトリック開発協議会)に属する一組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在10教区あり、すべての教区に DISAC が設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 DISAC の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランプーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホングソーン県の北部8県である。

チェンマイ教区 DISAC の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族(リーダー育成グループ、米配給)、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

DISAC は現在まで30年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行ってきたが、2004年度よりニッポー神父が中心となり、ナイヤナ (DISAC・Catholic Commission for Women チェンマイ代表)、スチャート (カチン族出身・RTRC ボランティアスタッフ)、スントーン (カレン族・DISAC/RTRC 委員)、トン (ルワ [ラワ] 族出身、RTRC)、プッサディ (ルワ [ラワ] 族出身、RTRC)、レック (カレン族出身・DISAC) と共に、ラフ族をはじめとして少数民族が抱えている問題について解決していくための活動を展開している。

ニッポー神父が所長を務めるチェンマイ市郊外にある RTRC は、少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共に主に女性を対象としたセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。

#### 1) 女性自立支援プログラム

RTRC スタッフが中心となり、セミナー等を実施し女性たちへプログラムの紹介を行った。現在、ルワ族2村、カレン族1村、モン族2グループから手工芸品等が持ち込まれている。

デザイン、品質等には改善しなければならない点が多々あり、メーサイにある聖家族カトリックセンター (アカ族の女子を対象とした寮。寮生に向けて裁縫も教えている) 等の職業訓練校及び日本からの意見を参考に、改善に取り組んでいる。

日本においてボランティアスタッフを得、神奈川県藤沢市と熊本県水俣市で手工芸品の販売及び活動紹介を常時行っている。また、販路開拓や注文の受付、活動紹介パンフレットなどをボランティアスタッフに作成していただいている。

2009年度タイにおける女性の自立支援、また女性たちが人身売買や麻薬から身を守るための活動の活性化にむけ RTRC における女性を対象とした部門を「パラシ・チャイ・プーイン」(力・心・女性の意) というグループを設置、伝統手工芸の保護、市場の開拓や販売促進などを行う。

主な活動内容は次のとおり。

- ①手工芸を中心としたワークショップまたはセミナーの開催 (農業関連を含む場合あり)
- ②ラフ族の村において、手工芸等に関心のある女性等を募り、RTRC で行われるトレーニングプログラムへの参加の呼びかけ。(トン村 [プラオ郡]、パーエー村 [チェンライ県ビルマ国境付近]、ウィンパパオ郡周辺ラフ村)
- ③ルワ [ラワ] 族の村 (ホツ村 [メーチェム郡]、パーペー村 [メーサリアン郡]) において、村で織られている布を「パラシ・チャイ・プーイン」で購入。経済的自立を目指す手工芸技術をもつ女性たち及び職業訓練校等に雑貨の製作を依頼。
- ④ローカルタイ女性からの参加促進。(ナイヤナ担当)
- ⑤各自の活動状況報告、手工芸品のデザイン・品質等の話し合い。(不定期)
- ⑥「金の道銀の道」(神奈川県藤沢市)、道の駅「みなまた」・水俣市ふれあいセンター (熊本県水俣市) において、手工芸品の常時展示販売。
- ⑦聖家族センター訪問 (不定期)
- ⑧日本人訪問者への手工芸品紹介 (於：バーンサバイ 不定期)
- ⑨ハッキア村より代表者との手工芸品等意見交換 (月 2 回)

※水俣市ふれあいセンターにおいては、水俣市母子連合会の方々の協力のもと、展示販売にあわせ活動紹介も同時に行っている。

※「金の道銀の道」、道の駅「みなまた」において、手工芸品と共に活動紹介のパネルを展示。



※チェンマイにある HIV/AIDS シェルター「バーンサバイ」において、常時手工芸品紹介。

#### ⑩その他の活動

- ・ポンパー村女性たちへの手工芸プログラム説明会(ナイヤナ他数名同行 5/5)
- ・「バーンサバイ」での職業訓練に関する話し合いなどに参加
- ・カトリック女性委員会会議・新司教への挨拶含む(6/25)
- ・ローカルタイ女性手工芸品制作見学(ランブン県パサン群・7/26)
- ・ハッキア村(チェンマイ県ジヨムトン群カレン族の村)との協働話し合い(9/12)
- ・フェアトレード団体訪問(チェンマイ市内 9/17)
- ・トン村(プラオ郡・ラフ族)訪問・手工芸品等の取り組みへ向けての調整(11/15)
- ・カトリック女性委員会会議(2/4)

#### 2) プラオチルドレンホーム

チェンマイ郊外にあるプラオにおいて、RTRC とドイツ人支援者が共同で運営する山岳民族の子ども達を対象にした寮。6歳～18歳までの児童が生活する。

ここに、週末2日間女性スタッフの補助を中心に滞在した。

実施した主な活動内容は以下のとおり。

- ①週末に滞在し、子ども達の生活のケア
- ②13歳以上の子どもを対象に日本語教室(2時間)
- ③ピアノ(鍵盤ハーモニカ)教室・グループレッスン(1時間)
- ④寄付品の運搬(チェンマイ⇄プラオ)

なお、2009年9月、女性スタッフの退職により新スタッフの雇用及びドイツからのボランティア派遣が決まり、チルドレンホームでの定期的な活動は終了。不定期に寄付品の運搬を行った。

#### 3) ラフ族の活動

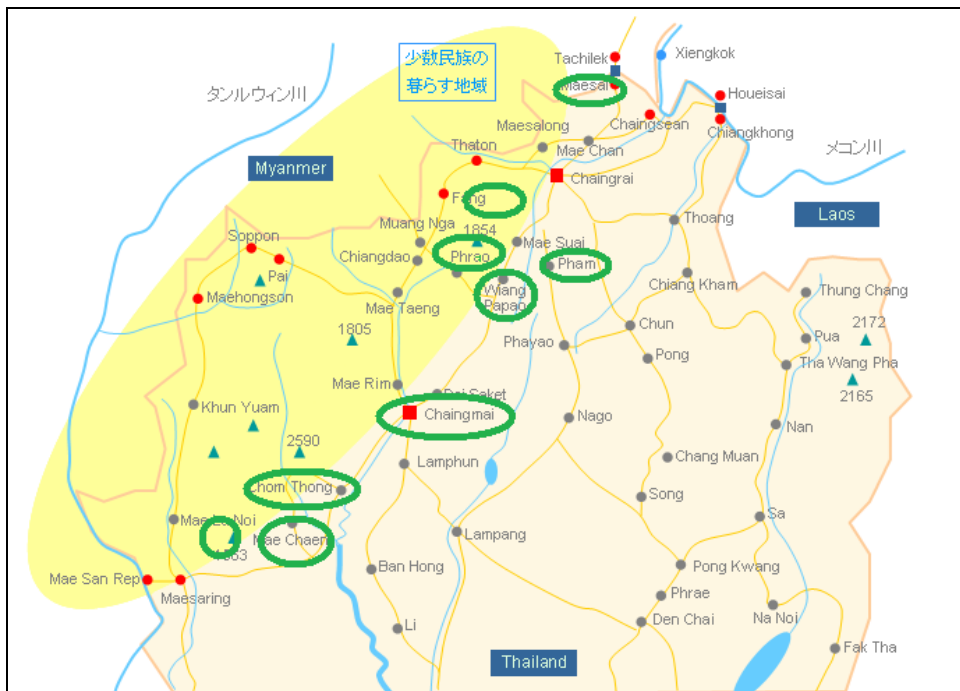
2006年5月より教育支援が本格化したが、2009年メーサイ聖家族カトリックセンターにて就学していた生徒全員が自主退学した。学習意欲の欠如が主な退学理由。これをきっかけに、支援体制の再編が行われた。

ラフ族支援で特に関わりの深かったポンパー村では、大量の大麻取引の摘発が行われた(2009年8月)。逮捕者の中には、就学中の保護者数名も含まれていた。その後、これまでポンパー村のカウンターパートとして共に活動を行っていた村の指導者家族が、チェンライ県ウインパパオ郡の村に移転したため、ポンパー村への単独での訪問及び支援は停止している。

約3カ月毎に、ニポー神父、スチャート氏、ストーン氏によるラフ族の複数の村への訪問が行い、これに同行した。

※2010年3月現在で4名(パン1名、プラオ2名)の子どもたちがポンパー村より就学中。

- ・村において RTRC との協働に関する話し合い。(不定期、主にトン村〔プラオ郡〕)
- ・ラフ族神殿献堂式参加(チェンライ県ウインパパオ郡)



図：派遣者が主に活動している地域(楕円の箇所)

#### IV サンカンペン中学高等学校(サンカンペンスクール)

##### 1. 対象地域と地域概要

チェンマイ市内から、約20kmの郡立中高一貫校である。生徒数約1,800名。チェンマイでは中規模の学校になる。ほとんどの生徒が、近隣の地域から通学している。100名ほどが学校に隣接している寮から通学。学校周辺は、有名な傘の産地であるため大型の観光バスが行き交う観光地である。サンカンペンスクールの生徒たちの両親のほとんども、商売に関わっている。生徒たちも帰宅後や休日は、家の手伝いに追われている。そのためか、大学への進学希望者よりも、技術校などへの進学希望者が多い。

学校の方針として、語学に重点が置かれている。英語・フランス語・中国語・日本語に分かれる。日本語は英語の次に生徒数が多いが、卒業後も続ける生徒は最も少ない。理由の一つとして、チェンマイ県内の大学において、日本語専攻には教職課程がない。また公立校において、日本語教師は公務員として正職員の採用枠が無いに等しいためである。

日本語のクラスでは、これまでタイ人教師による授業が行われており、平仮名での読み書きは、どの生徒も特に問題はない。しかし、漢字・会話の授業は、ほとんど行われていなかった。これはサンカンペンスクールに限ったことではなく、タイ全体の日本語教育現場での問題点である。タイ人教師自身が、漢字・会話を不得手としているため、授業は文法中心となってしまっているのが現状である。また、タイの教育現場で、生徒に発言させるということはあまり熱心に行っていない。

現在、サンカンペンスクールでは週3日(月火水)活動を行っている。高校1年生から3年生の日本語授業を、タイ人教師と分担して行っている。主に、会話と漢字の授業を担当。

##### 2. 活動概要

###### 1) 日本語クラス授業(週3日)

高校1年生～3年生の漢字・会話の授業を担当。

	月	火	水	国家斉唱
1時限	M5(高2)	M6	M5	8:20-9:20
2時限				9:20-10:20
3時限	M4(高1)	M4	M6	10:20-11:20
4時限				11:20-12:20
5時限				12:20-13:20
6時限		クラブ活動	M4	13:20-14:20
7時限	M6(高3)			14:20-15:20
8時限				15:20-16:20

## 2) チェンマイ市内高校生スピーチ大会(年数回)

校内での選抜、スピーチの文章作成・スピーチの指導。

## 3) 長期休暇中 M5、M6 生徒への補習授業(3月中旬～5月上旬)

## 4) 日本祭、校内文化祭、外部団体訪問時の準備及び当日の業務

(生徒への日本語スピーチ指導・ゆかた着付け・日本文化紹介等)

- ・ 全県教育委員会来校(日本語クラス生徒代表スピーチ 8/25)
- ・ Cross-Country Loy Kratong Festival(11/4)
- ・ 創立記念行事(11/24)
- ・ 卒業式(3/5)
- ・ 在チェンマイ日本領事館職員来校(3/17 日本語学習者進路調査)

## V その他の活動

### 1) YPD カレン・トレーニング・+プログラム参加(メーソット 4/3～9)

- ・ YPD カレン2009年プログラム参加者によるアクティビティ(メーソット 4/27～30)

### 2) バーンサバイ(HIV/AIDS シェルター)でのボランティア(不定期)

- ・ チェンマイ近郊にあるシェルター施設「バーンサバイ」においてレター発送補助、
- ・ 入院患者、入所者自宅等への訪問。昨年度から引き続き、入所者受け入れ先の話し合い(受け入れ先カトリック関係機関への引き継ぎ等)
- ・ 家庭訪問同行(ランパン県)
- ・ 職業訓練についての話し合いと準備(毎週)
- ・ PKDS(Pan Kachin Development Society)バーンサバイ訪問のため連絡、調整
- ・ ハッキア村代表者のバーンサバイへの訪問のため連絡・調整(12/11)

### 3) Bwe K Ler 小学校、難民キャンプ等[支援金・寄付品等運搬](不定期)

- ・ Mae Tao クリニック訪問[車いす運搬](不定期)
- ・ メーソット活動関係奨学金に関して支援団体に問い合わせ(9/13)
- ・ Thabyay Education Network(チェンマイ市)

※Bwe K Ler 小学校:メーソット郊外にある移住者の子ども達の学校。主にビルマカレンの子ども達が、近隣の村や寮で共同生活をし、この小学校で勉強している。

### 4) 一時帰国

松本和歌子 2009年10月10日～10月26日

### 5) 報告会等

2009年10月11日	横浜教区カトリック保土ヶ谷教会にて手工芸品紹介・販売
10月13日	コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院活動報告
10月14日	金の道銀の道(湘南台)・物品搬入
10月16日	カノッサ修道女会水俣修道院へ挨拶
10月17日	道の駅「みなまた」訪問 福岡教区カトリック水俣教会報告会、手工芸品紹介・販売
10月18日	カノッサ修道女会大口修道院へ挨拶
10月20日	水俣市内商店街、カトリック水俣教会バザーへの寄付願い
10月21日	水俣市ふれあいセンターへ挨拶、物品搬入
10月23日	フェアトレードカフェ・アニパニにおいて活動報告・手工芸品販売
10月24日	筑紫野市バザー参加(協力:福岡アジア女性センター)
10月25日	鹿児島教区カトリック出水教会へ挨拶、バザー出展

#### 6) その他

##### a) 日本人訪問者活動地訪問受け入れ

AWC 福岡(アジア女性センター)より RTRC 見学者受け入れ(8/21)

Mae Tao クリニック訪問[車いす寄付グループ案内](8/8~9)

Bwe K Ler 小学校へ日本人支援者訪問(8/9、9/26)

DISAC 日本人訪問・女性対象の活動を紹介(11/12)

特定非営利活動法人 GGP(ジェンダー・地球市民企画)(北九州市)RTRC 来訪(1/9)

##### b) PKDS 事務所訪問・活動等の説明を受ける(チェンマイ市、11月中の毎週日曜日)

##### c) DISAC 黙想会・一部日程参加(RTRC:10/30~11/1)

##### d) JLMM 事務局チェンマイ訪問(8/27~30)

JLMM 事務局長チェンマイ訪問(1/20~22)

##### e) アジアの風(コングレガシオン・ド・ノートルダム主催のスタディーツアー)DISAC 売店訪問補助(1/12)

##### f) 水俣カトリック教会より古着寄付受領(1/19)

### (3) 東ティモール

1999年に発足した東ティモール東部ラウテン県ロスパロス郡トリスラ地区でプライマリ・ヘルスケアの普及啓発活動を行う現地国際 NGO「東ティモール医療友の会(AFMET)」(現 特定非営利活動法人東ティモール医療友の会)に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2006年1月3日、佐藤邦子(名古屋教区)をコーディネーターとして派遣。2008年12月13日、渡邊怜子(横浜教区)を派遣した。

#### I コミュニティ・ヘルスワーカー育成、プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

CHW スキルアップセミナーの開催

##### 1. アドバンスセミナー

CHW 養成セミナーを終了し、現在各村で活動中の第1~7ブロックの CHW に対して①性感染症について、②環境衛生についての2項目のアドバンスセミナーを実施した。

①性感染症についてのセミナーでは、写真を使って実際にどのような症状が現れるのかを説明した。繊細

なトピックであったため賛否両論ではあったが、実際村の中では多くの患者が存在するとのことであった。羞恥心から病院に行くことができず CHW に相談に来ることもあるとのことで、意義のあるセミナーとなった。

②環境衛生についてのセミナーでは AFMET スタッフの他、県保健局から環境衛生の担当者を招き、CHW の環境衛生に関する知識向上、また PSF となっている CHW に関しては SISCa プログラムの中での衛生教育活動や、家庭訪問環境チェック活動の実施のための能力向上につなげることができた。

表：2009年度アドバンスセミナー

トピックス： ①性感染症について	2009年 7月1日	第123ブロック:23名(66%)
	7月2日	第4ブロック:15名(60%)
	7月8日	第5ブロック:15名(63%)
	7月9日	第6ブロック:15名(41%)
トピックス： ②環境衛生について	2010年1月20日	第123ブロック:18名(67%)
	1月21日	第4ブロック:13名(59%)
	1月27日	第6ブロック:8名(67%)
	1月28日	第5ブロック:11名(46%)
	2月3日	第7ブロック:8名(35%)

今年度の2回に亘って開催されたアドバンスセミナーは全体的に出席率が予想より低かったが、これは CHW の多くが政府の SISCa プログラムにおいてボランティアとして活動しているため、セミナーのトピックやトレーニングの日程が重複していたなどの理由が考えられる。村で保健ボランティアとして活動できる人材は決まっており、今後 AFMET が行うセミナー以外にも、政府や他 NGO からのアプローチもあるなど 1 人のボランティアに対して様々な機関からのトレーニングやプログラムが集中する可能性が考えられる。次年度はこのような事態を防ぐために NGO、政府の横の連携を強めると共に、PSF となっている CHW を主体にトレーニングを企画するなど対策を考えていく必要がある。

## II 健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業

### 1. SISCa プログラム

#### (1) PSF サポート

昨年度に引き続き今年度も政府保健省主催の地域保健プログラム SISCa(Servisu Integrado Saude Comunitaria)に協力した。AFMET はラウテンモロ郡、ロスパロス郡の2つの郡の8つの Post SISCa において、WFP(World Food Program 国連世界食糧計画)から栄養失調児に対して配布される CSB(Corn Soya Blend)の運搬と、医療チームに対しての交通費をサポート、あわせて活動全体のモニタリングを行った。

また、5月に AFMET スタッフが SISCa の問題点を地域別に分析し、SISCa のボランティアである PSF(Promotor Saude Familia)に対してレベル別のキャパシティビルディングを行うこととした。6月の SISCa で PSF に対してトレーニングの実施に関する説明を行い、7月から本格的にトレーニングを始めた。主に、健康教育、衛生教育の手法、母子手帳の記入方法や体重測定、栄養失調児の選別方法などを①SISCa が行われる1日前にヘルスプロモーションを行う担当の PSF を訪問し、フリップチャートの使い方、説明の仕方などを練習する事前トレーニング②当日、実践しながら母子手帳の書き方で分かりにくい箇所や、栄養失調児の見分け方などをその場で練習、アドバイスをする実地(On-the-job)トレーニング、の2つの方法をとって行った。

Post SISCa Titilari に関しては AFMET の CHW が PSF に選ばれておらず、政府側の PSF のマネージメントも出来ていないために PSF が参加しない状況が続き、トレーニングの実施が困難であったため、モニタリングを中止し政府側に返上した。1月以降は政府側から SISCa の日程表が通知されず開催日がはっきりしなかったこと、AFMET のスタッフの不足などの理由から、いくつかの Post SISCa はモニタリングを行わず車両のみ提供するサポートを行った。各 Post SISCa におけるヘルスプロモーション実施状況と参加人数は以下の表を参照。

また、1年間の PSF の活動を評価し次年度の計画を立てていくため、3月3、4日に PSF ワークショップを AFMET にて開催した。ワークショップ1日目には県保健局から健康教育・環境衛生課のアルフレッド氏、栄養課のバージニア氏を招き、栄養、環境衛生の項目で PSF に対してリフレッシュトレーニングとアドバンスドトレーニングを行った。また、健康教育に使用する教材としてマラリア、下痢、栄養失調など5つの病気を題材にした歌を紹介した。2日目は、SISCa プログラムについて問題分析(SWOT Analysis)を、AFMET スタッフがファシリテートした。問題解決法についてグループ・ディスカッションを行い発表し、各 Post SISCa で2010年度の活動計画を策定した。2日とも、27名(75%)の参加率を得た。

表:PSF によるヘルスプロモーション活動 4～9月

Post SISCa	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加
Mahina I	マラリア 下痢	-	未実施	-	未実施	-	手洗い	10	目の 感染症	40	栄養	51
Mahina II	マラリア	-	中止	-	未実施	-	喘息	85	下痢 栄養	50	寄生虫	60
Puno	-	-	下痢	-	未実施	-	ISPA	26	母子の 健康	40	貧血	55
Com	マラリア ISPA	-	下痢	-	未実施	-	栄養	60	栄養	60	ISPA	60
Lorell	離乳食	-	環境衛生	-	未実施	-	栄養	33	マラリア	27	皮膚病	50
Leuro	マラリア 環境衛生	-	環境衛生	-	結膜炎 ISPA	29	ISPA	30	マラリア	30	皮膚病	50
Raca	マラリア 環境衛生	-	マラリア	-	手洗い	52	マラリア	20	栄養	27	下痢	21
Titilari	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

PSF によるヘルスプロモーション活動 10～3月

Post SISCa	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加
Mahina I	未実施	-	未実施	-	-	-	-	-	下痢	50	下痢	50
Mahina II	結核	55	ISPA	60	マラリア	60	栄養	50	-	-	下痢	70

Puno	結核	60	環境衛生	25	マラリア 環境衛生	33	-	-	-	-	マラリア 下痢	47
Com	結核	55	環境衛生	65	ISPA	65	-	-	寄生虫	30	マラリア 栄養	30
Lorell	Cancel	-	Cancel	-	環境衛生	20	-	-	-	-	マラリア	46
Leuro	Cancel	-	Cancel	-	Cancel	-	-	-	-	-	未実施	-
Raca	栄養	24	下痢	22	下痢 マラリア	30			-	-	マラリア	-
Titilari	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ISPA = 上気道感染

※ - = データ無し(モニタリングスタッフの不足などが原因)

※ 人数=PSF がヘルスプロモーションを実施している時その場にいた大人と、内容を理解できる年齢に達している子ども

## (2) トレーニングへの協力

11月23日～12月3日にかけて行われた保健省主催の SISCa PSF リフレッシュトレーニングには AFMET スタッフ3名がトレーナーとして協力した。(マスター・トレーナー1名、ディストリクトトレーナー2名)

## (3) その他

7月20日にラウテン県の Community Health Center(CHC) 主催の SISCa ミーティングに AFMET スタッフ2名が出席した。

3月17日に AFMET が県保健局、NGO MDM-P(Medicos do Mundo Portugal)に働きかけ、3者の共催でラウテンモロ郡における KJPS(Komisaun Jestaun Programa nivel Suco)会議を開催した。KJPS とは、コミュニティーリーダー(村長、地区長、女性リーダー)を指し、この会議の中では SISCa の実践における KJPS の役割の再確認、それぞれの村の SISCa 実施における問題点、問題の解決策、責任者の構成などが話し合われた。AFMET スタッフ1名がファシリテーターとして参加するとともに、2009年度のモニタリング結果、SISCa における AFMET の役割、プロジェクト内容などを説明した。コミュニティーリーダー74名に案内状を出し、46名の参加を得た(62%)。会議の後それぞれの Post SISCa で KJPS の協力体制に改善が見られている。4月にロスパロス郡でも開催予定。

## 2. 学校保健プログラム

4月7日、ロスパロスの県教育局にて AFMET スタッフが副局長と会談を行いラウテン県でのパイロット校の選出を依頼した。5月8日に再び副局長と会談し、ラウテン県で4つのパイロット校について実施することに決まった。これを受けて、AFMET スタッフが学校の教師を対象としたセミナーで使用する教材(テキスト)のドラフトを作成し、県保健局(DHS)担当者との協議の上、5つのトピックスについての教材を作成した。しかし、8月から政府の方針で全国の教師に対してポルトガル語を強化するための講座を実施することとなり、学校は全て1月まで休暇となってしまった。それに加えてさらに4月も同じ理由で学校は休暇となるため、プログラム実施時期の選定が難しく、実施は次年度に持ち越しとなった。

### 3. 啓発 T シャツ作成

今年度はパイララ村での CLTS プログラムに沿って衛生教育 T シャツを作成した。前面には、トイレを使うこと、トイレに行ったら手を洗う、手を洗うときは石鹸を使うというメッセージを絵で示し、背中には「石鹸で手を洗うことが、あなたの健康を守ります」といった言葉が書かれている。袖には AFMET と CG「FINI」のロゴマークが入っている。パイララ村では活動の際は必ずこの T シャツを着用することを決め、グループの結束を強める効果もあげた。「環境衛生フェスタ」(Sanitation Festa)の際には参加者全員がこの T シャツを着て村の衛生状態の改善を祝った。

啓発 T シャツは BCC (Behavior Change Communication 行動変容のためのコミュニケーション) として注目されている。日常的にメッセージを目にしたたり口にしたたりすることで行動変容につなげていこうという考え方である。

## Ⅲ プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティ事業

### 1. CG 代表者会議 (Cooperative Group Representative Committee = CGRC)

#### (1) CGRC の運営・活動補助

今年度、CGRC は、CG「FINI (Fuan Ida Neon Ida)」として発足。2 ヶ月に 1 度の定期的なミーティングの他に行事にあわせて臨時ミーティングなどを行った。それぞれの村での活動報告、石鹸の販売状況、品質管理方法、薬草園の状況、EXPO の情報など全てのグループへ最新情報を発信すると共にそれぞれのグループの活動フォローアップ、情報収集を行った。

開催数	日付	内容	参加数
第2回	4月8日	各代表者からの活動報告、CGRC の役割分担 (組織図) の決定 5月に開催予定の CG フォーラムの目的について	16名
臨時	4月22日	5月20日の独立記念日に開催される CG フォーラムの準備、役割分担について	14名
第3回	6月3日	各代表者からの活動報告 (薬草園の状況、薬草の発育状況、石鹸の品質管理について)	16名
第4回	7月16日	各代表者からの活動報告、8月に政府主催のディリで行われる予定の EXPO の詳細と参加予定者について	17名
臨時	8月10日	Dili EXPO 出展の最終打合せ	4名
第5回	9月2日	Dili EXPO の反省、各代表者からの活動報告 (薬草園の状況、薬草の発育状況、石鹸の品質管理について)	13名
第6回	10月27日	10月15～18日に行われた Dili Exhibition の結果報告、反省点について	15名
第7回	11月13日	11月27～30日に予定されている独立投票記念日地域物産展示即売会の役割分担について	16名
第8回	12月9日	11月28日に開催された地域物産展示即売会の反省点について	15名
第9回	2月10日	各代表者からの活動報告 (薬草園の状況、薬草の精製状況など)、薬草トレーニングのスケジュールを決定	14名

#### (2) ラウテン県におけるマラリア対策保健教育計画プロジェクト

在東ティモール日本大使館より、住友化学のオリセットネット (蚊帳) を配布するプロジェクトを、AFMET の



CG「FINI」に委託したいとの依頼を受け、2月4日に FINI コアメンバーでのミーティング、2月10日には CGRC 全メンバーを召集しプロジェクトの概要説明を行った。

3月27日に在東ティモール北原巖男日本大使を迎えプロジェクトの調印式を行った。プロジェクトは次年度に実施される予定。内容は、以下のとおり。

- ①CG の活動する18の地域で CG メンバーが住民1家族に1つの蚊帳を配布。
- ②配布する際、マラリアなど環境衛生に関わる疾患に関するヘルスプロモーションを行い住民が蚊帳を有効利用できるよう促す。
- ③配布後、使用状況のモニタリングを行う。

東ティモール全土で様々な組織が蚊帳を配布しているが、現状は蚊帳を使わずに転売してしまったり、魚を取るための網にしてしまうケースがある。また、子ども1人に蚊帳を1つ配るという配り方をしている組織もあるが、東ティモールの一般家庭で、子ども1人に対してベッドが1つという状況はほとんど無く、3~4人が1つのベッドで寝ることが一般的である。これらの状況を踏まえ、蚊帳の意義や使用方法を十分に説明すると同時に、もうすでに蚊帳がある場合、薬剤が網に練りこんであるオリセットネットの特徴を生かして、玄関や部屋の入り口に暖簾の変わりに下げたり、網戸として窓に取り付けたりするなど、蚊を家に入れないために工夫した使い方なども紹介していく。

### (3) BESIK プログラム

2010年2月から始まり3年間の Hygiene Marketing Program として保健省のサポートを受けた。2月から7月までは準備期間として、6ヶ月間のプログラムを実施。内容は、FINI CGRCメンバーによる石鹼製造プログラムと保健衛生を兼ね備えたプログラムである。これを、他県(リキサ県)にてFINIがGMF (Group Management Facilitator)に向け、トレーニングを行う。特に石鹼を使用することに関係付け、住民が石鹼を使って手洗いをすることで下痢の疾患を減少させることを目的とした。さらに、FINI(ラウテン県)とGMF(リキサ県)において薬用石鹼を製造することで、地域製品の市場を東ティモール国内にて促進させることを最終目的とする。

今年度はその準備段階として、FINIへのToT(Training of Trainers)を4回にわたって実施した。

トレーニング内容は、①ファシリテートトレーニング、②保健衛生トレーニング、③PCM(Project Cycle Management)トレーニング、④ビジネストレーニングとなっている。

## 2. CG の発足と活動

### (1) 薬草栽培に関する研修の実施

今年度は、計16の CG で薬草栽培に関する研修を実施し、薬草園作り、薬草苗植え付けが終了した。2つのCGは場所の選定やメンバーが集まらないことなどから、まだ設置できていない。フォローアップ・ミーティングを行い今後の方針や予定を決めていく。すでに薬草園を設置した CG に対しては AFMET スタッフが薬草園のモニタリングを定期的実施した。まだ植えていない薬草の苗のチェックや枯れてしまう薬草、育ちが悪いものに関しては、原因を究明し薬草園の改善に努めた。

薬草園作り、薬草トレーニングの進行状況は資料3参照。

### (2) モニタリングとフォローアップ

10月19日に Codo atas の CG グループのフォローアップ・ミーティングを実施し、AFMET スタッフがオブザーブした。グループは CG としての活動を続けたいという希望があるため、今後も彼らの活動をサポートし

ていくこととなった。2月23日に再度 Codo atas のCG に対するフォローアップ・ミーティング実施。CG メンバーは現在女性1名であるが薬草園の設置を希望し3月15日に設置完了した。

2月25日に Com bawah のCG に対するフォローアップ・ミーティング実施、薬草園の設置について話し合った。メンバーが薬草園設置の時期を決め、AFMET に連絡することになった。

3月18日 :Mahina I 薬草園モニタリング。

### (3) 薬草石鹸プロモーション

4月27日に、ロスパロスのラジオ局 RCL の地域物産品のプロモーション番組(45分)に、AFMET スタッフとCG 代表者1名が出演し、CG の活動、石鹸販売について放送を行った。

5月にロスパロス市内の7軒の商店、修道院、市場(メルカド)、バウカウ市内の商店で薬用石鹸の販売を開始した。ディリでは、NGO Alola Foundation のタイスショップ、NGO Yayasan Hak を通じ、各キヨス(売店)で、NGO KorTimor の地域物産店でそれぞれ石鹸の販売を行っている。また、NGO DAI(USAID)の「Buy local production プロジェクト」を通じてディリ市内のスーパーマーケットなどの店舗で石鹸を売ることが出来るようになり、2010年1月にはCGRC1名がモニタリングに同行した。しかし、今年度をもってDAIのプロジェクトが終了することから、ディリ市内で石鹸を販売している店舗のリストを CGRC に渡し、今後はメンバーが交代でモニタリングを行っていきけるよう CGRC の能力向上が必要である。

今年度はロスパロス以外にディリやバウカウにて石鹸のプロモーションに力を入れた。10月15日には World Hand Washing Day(世界手洗いデー)に参加し、ロスパロス国立病院とCHC ラウテンにおいて石鹸販売と衛生教育デモンストレーションを実施した。AFMET クリニックでの販売も続け、年間で約9,700個の石鹸を販売・普及を行った。

### (4) EXPO 等への参加

5月20日 CG フォーラム(主催:AFMET&FINI 会場:ロスパロス)

8月 Dili EXPO(主催:MTCI 会場:ディリ)

10月 Dili Exhibition(主催:MODE 会場:ディリ)

11月 独立記念 EXPO(主催:Admin&NGO フォーラム 会場:ロスパロス)

3月27、28日 Alola Foundation EXPO(主催:NGO Alola Foundation 会場:ディリ)

5月18日～20日にロスパロス市内の特設会場で開催された CG フォーラムでは、CGメンバー約120名が参加し石鹸のプロモーションを行った。8月には政府主催の EXPO が首都ディリで開催され、7名のCGRC が参加してヘルスプロモーションを兼ねて石鹸と薬草を販売。10月15日～18日にディリで行われた展示会では石鹸だけではなく薬草パックや薬草オイルも出展し、好評を得た。11月には独立記念日の EXPO がロスパロスで開催され、55名の CG メンバーが交代でヘルスプロモーション、石鹸、薬草の販売を行った。3月にディリで行われた Alola Foundation の EXPO には、CG メンバー2名が参加し石鹸の販売を行った。

### (5) CLTS(Community Led Total Sanitation) 「コミュニティー主導の全村環境衛生活動」

今年度、AFMET ではCLTSプログラムを実施した。これは、住民にトイレそのものを支援するのではなく、衛生教育を行って住民自らトイレの必要性を感じ、住民自らがトイレを建設するというプロジェクトである。

AFMET から住民に対してトイレ建設資材などは一切支援せず、「教えない、与えない、押し付けない」を

合言葉としている。「村中あちこちで村人が排泄をしている現状」を、住民を巻き込んだトリガリング(活動開始セレモニー)で示し、このような状況が生み出す健康への被害などを話す。また、どのように不衛生な状況が体を病気にしていくのかなどの過程(例:人間の排泄物をブタが食べ、そのブタが飲んだ水を使って食器を洗っている/排泄物にとまったハエが食事にもとまる、など。)を話し、外で排泄をしていることがどんなに不衛生で、「気持ちの悪い」環境を生み出しているのかさりげなく伝える。そうすることで村人が「トイレを作りたい」「トイレが必要だ」と考えるようになり、結果自らトイレを作るのならその技術をサポートする。例えば、便器の作り方、穴を掘る場所の選定の仕方など。資材は一切支援せず、資材の提供がなくトイレを設置できないというのなら強要はしない。

保健省は東ティモール全土でこの手法をとることを決定。その背景には資材の一切を支援して作られたトイレは、ほとんどのケースで全く使われず壊れたり放置されて住民はまた周辺での排泄に戻ってしまっているという統計があるからである。AFMETも政府の方針に従うと共に、全てを支援することよりも技術や知識の提供がなによりも大切だと信じており、CLTSを使ったトイレプロジェクトを NGO Fraterna(ローカル NGO)と協力して行うことになった。

6月4日に保健省の衛生担当者、International NGO Planをはじめとする NGO 関係者から構成されるトイレ・モニタリング・チームの視察(ラウテン県, Suco Mahina II, Leleira 村)に同行し、住民のトイレに関する意識や過去に NGO の援助で作られたトイレの使用状況などを調査した。6月17日～19日には AFMET のターゲット・エリア(ロスパロス郡、モロ郡)を対象としてトイレ設置に適した小村を選定するための調査を行った。村でのトイレの普及の度合い、水源地までの距離、住民の意識、他の NGO、教会などの支援状況、CGメンバーの協力度などについて評価し、ラウテンモロ郡の Aldeia Iracau, Levono(Suco Pairara)をトイレ設置コミュニティとして選択し、プログラムを実行していくことに決定した。

8月3、4日に CLTS の活動予定についてラウテン県知事、DHS 衛生担当ディレクター、水・衛生課(SAS)担当者およびサレジオ会のディレクターに、6日にはラウテンモロ郡 CHC (Community Health Center), Pairara 村長に説明を行い、理解を得られた。CLTS 実施前に再度村の中での調査を行い、18日に住民を対象にコミュニティミーティングを行った。21日にはトリガリングを実施し、24、25日からは村内でのトイレの設置状況、などのモニタリングや簡易トイレ設置の実演指導などを開始した。また、NGO Fraterna のスタッフから AFMET スタッフへのキャパシテビルディングを行い、CLTS に関する知識、技術の向上を図った。

9月2、3日にはコミュニティの有志から構成される”Group Voluntario Sanitasaun(GVS)”が組織化され、村の衛生地図作成、本格的にモニタリングを開始した。9月16日に GVS トレーニングが開催された。20名の参加者があり、GVS の組織図、GVS の役割、村人動員のテクニック、その他についてのトレーニングを行った。また、有志の住民の家を対象に簡易トイレ設置のデモンストレーションを随時開催した。

9月25日に第2回 GVS トレーニングを開催。26名が参加し、衛生教育、サニテーションマーケティングについて学んだ。

10月モニタリングを継続。10月12、13日の2日間で GVS メンバーと AFMET スタッフが NGO Water AID が Liquiça 県で行っている CLTS プログラムを視察した。また、10月26日には村人を対象として、コミュニティ・センターでサニテーションおよび CLTS に関係したフィルムを上映した。

11月モニタリングを継続。11月3日に第3回 GVS トレーニングを開催した。Sanitation Marketing について学んだ。本格的に便器の製造を開始するため、GVS がセメントの調達を行った。11月19日にはロスパロスのラジオ局 RCL で GVS のメンバーが作製した便器に関してのプロモーション番組の放送を行った。また、11月26、27日には保健省主催の CLTS オリエンテーションに GVS のメンバー1名が参加した。

12月モニタリングを継続。12月3、4日に第4回 GVS トレーニングが開催され、便器の作り方について学

び、16日には専門家による便器作製トレーニングを実施した。

1月モニタリングを継続。1月8、12日に CLTS プログラム担当者と コミュニティリーダーによるミーティングを行い、活動状況、プログラムの進行状況などについて話し合いを行った。また、1月28日には保健省衛生課担当者および専門家による CLTS モニタリングを受け入れ、同行した。1月22、29日には、村内の学校を対象に GVS が衛生教育を行った。

2月モニタリングを継続。プロジェクトの最終段階である環境衛生フェスタ(Sanitation Festa)開催の企画を立てた。2月2、5日より、GVS が製造したセメント製の便器を住民に販売。また、Pairara の幼稚園および小学校の学童に衛生教育のメッセージの入った T シャツを配布した。2月23日には第5回 GVS トレーニングが開催された。これは GVS からの要望で、衛生環境に関係する疾患に効能のある薬草について学んだ。

2月25、26日に環境衛生フェスタ(Sanitation Festa)の準備を行い、2月27日に環境衛生フェスタ(Sanitation Festa)を開催。トイレを設置した家庭を招き、ODF (Open Defecation Free)を祝った。子ども達による衛生教育劇や歌の発表、GVS による衛生プロモーション、便器製造実演が行われ、その場で住民から注文が殺到した。

3月16日には GVS による環境衛生フェスタ(Sanitation Festa)評価ミーティングが行われ、翌日は国際 NGO Plan と Fraterna が行っている Iliomar 郡における CLTS プロジェクトチームの Pairara 村視察を受け入れた。また、保健省衛生課アドバイザー、他2名も Pairara 村 CLTS 実施状況視察した。

3月末現在、147世帯のトイレ設置状態は以下のとおり。

- ① トイレ完成後使用している世帯・・・70世帯
- ② 汚物槽のための穴の掘削を終了した世帯・・・29世帯
- ③ まだ着手していない世帯・・・48世帯

①と②をあわせると、トイレ設置世帯は当初の3%から67%に増加したことがわかる。

次年度は Pairara 村の GVS との協力を引き続き強めていき、彼ら自身の希望である「村の中で100%のトイレ設置」を達成することを共に目指していくとともに、別の村における CLTS プロジェクト実施を計画している。

#### IV 地域医療行政との連携・協力事業

##### 1. 地域保健行政との連携

###### (1) 保健及び開発行政と他の NGO との定期的会合

詳細は以下のとおり。

日付	内容
4月6日	県保健局(DHS)において開催されたラウテン県における、SISCa プログラム実行に関しての問題点を DHS、MDM-P、AFMET の3者協議
4月21日	ロスパロスで開催された保健省主催の“NGO フォーラム”に AFMET スタッフ1名が出席
4月27～30日	ロスパロスで開催された保健省主催の“DTT トレーニング”に AFMET スタッフ1名が MTT として、3名が DTT として参加
6月30日	県保健局(DHS)において開催されたラウテン県における、SISCa プログラム実行の問題点についての DHS、AFMET、MDM、医療関係者による評価ミーティングに AFMET スタッフ2名が出席

7月1日	ディリで開催された保健省主催の SISCa 作業部会に AFMET スタッフ2名が参加
7月2日	ディリで開催された保健省主催の健康促進会議に AFMET スタッフ1名が出席
7月3日	ディリで開催された NGO “SHARE” 主催の学校保健ワークショップに AFMET スタッフ1名が参加
8月10日	ロスパロスで開催された、NGO “Plan International” 主催のラウテン県における環境衛生調査ワークショップに AFMET スタッフ2名が参加
10月5日	世界災害予防デーミーティングに AFMET スタッフ1名が参加
10月6日	MTT Training: マスター・トレーナーのジェンダー配慮に関するワークショップ (ディリ)
10月6日	SISCa 作業部会(ディリ)
10月7日	DHS 会議 (ロスパロス)
10月14日	Radio Comunitaria LosPalos (RCL)で手洗いデーの特別番組を NGO Plan-International、NGO Fraterna と協同で放送
10月15日	Dili 展覧会会場、ロスパロス病院および CHC-Lautem において世界手洗いデーキャンペーンを開催
10月29日	DHS にて行われた医療従事者を対象としたドメスティックバイオレンス(DV)に関するトレーニングに AFMET スタッフ 1 名が参加
10月30日	NGO フォーラム(ラウテン郡)に AFMET スタッフ 2 名が参加
11月6日	NGO フォーラム(ロスパロス郡)に AFMET スタッフ1名が参加
11月11日	NGO フォーラム(ロスパロス郡)に AFMET スタッフ1名が参加
11月19日	世界衛生デーキャンペーン(AFMET スタッフ5名、CHW12名参加)
11月23～26日	保健省主催の SISCa PSF リフレッシュャー・トレーニングに AFMET スタッフ2名が、マスター・トレーナー、ラウテン県トレーナーとして協力
11月23～27日	MoH 主催 CLTS ファシリテータートレーニング(ディリ)に AFMET スタッフ2名
12月3日	AFMET セミナールームにて国際 NGO ミーティング開催 参加 NGO: Plan-International、GTZ、Fraterna、MDM-P、AFMET)
12月1～3日	SISCa PSF トレーニング実施
12月15日	Catholic Relief Service (CRS) セミナーに AFMET スタッフ1名が参加
1月19日	Behavior Change Communication(BCC) Work Shop(ディリ)に AFMET スタッフ1名が参加
1月22日	Water AID ディリ事務所にて、リキサ県・ラウテン県におけるコミュニティボランティアのための持続可能な衛生マーケティングのプロジェクトについての打ち合わせ
1月25, 26日	DHS ミーティングに AFMET スタッフ3名が参加
2月22日	DHS 局長、PHC 担当ディレクターと AFMET スタッフで3月に予定されている“SISCa PSF Workshop”および“KJPS Meeting” についての会議開催
2月23日	ラウテン CHC、SISCa 担当者と AFMET スタッフ2名が3月に予定されている“SISCa PSF ワークショップ”および“KJPS ミーティング” についての会議開催
3月8, 9日	NGO-SHARE 主催の SISCa プログラムワークショップ(ディリ)に AFMET スタッフ2名が参加
3月10-12日	保健省主催 BCC ワークショップ(ディリ)に AFMET スタッフ2名が参加
3月17日	KJPS ミーティング (ラウテンモロ CHC)に AFMET スタッフ4名が参加

(2) 保健省栄養委員会、栄養関係トレーニング等への参加

- 5月19日 栄養に関する作業部会(Nutrition Working Group (NWG))(ディリ)
- 9月15日 緊急時の栄養に関する戦略ワークショップ(ディリ)
- 9月30日 CHC ラウテン主催 栄養に関するリフレッシュトレーニングに AFMET スタッフ2名(看護師、薬剤師)が出席した。栄養不良の子どもの対策について保健省から講師を招聘して開催した。

(3) 保健省環境保健委員会、環境保健関係トレーニング等への参加

- 5月29日 衛生に関する作業部会 (Sanitation Working Group (SWG)) ミーティング(ディリ)
- 9月24日 MoH 主催、衛生に関する作業部会(SWG)ミーティング(ディリ)
- 6月4日 保健省環境保健委員会メンバーによるラウテン県衛生に関する調査(Mahina II)に AFMET スタッフ2名が同行した。
- 11月25日 衛生ワークショップ(ディリ)
- 3月2日 2010年政府衛生ワークショップ(ディリ)

(4) 政府結核プログラムの実施

今年度、3回にわたって結核プログラムを実施した。結核プログラムとは、AFMET の看護師とトレーニングを受けた CHW が村中の家を一軒一軒回って結核が疑われる症状のある人を探し(スウィーピング)、疑いのある人の喀痰検査を3度行う。陽性だった場合、AFMET クリニックでの治療または CHW により DOT (Direct Observation Treatment)での投薬が行われる。毎日確実に適量の薬を飲む必要があるため、特に高齢の場合や身近に投薬の手助けができる家族が居ない場合、CHW が投薬を管理し、毎回 CHW の見ている前で薬を飲むようにした。投薬期間は8ヶ月(初期段階2ヶ月、継続段階6ヶ月)である。

喀痰検査で陰性だった場合で咳が続いている場合は、抗生剤を10日間投与する。その後症状が消えれば疑いは消えるが、症状が続く場合はレントゲン検査のためにバウカウ病院へ搬送する。

協力を依頼する CHW に対してはプログラム実施前に技術確認のため、リフレッシュトレーニングを実施した。また第1回の結核プロジェクトに関しては、事前に DHS の結核プログラム担当者と打ち合わせを数回行い、予算や実施スケジュールに関して綿密な計画を立て、6月29、30日に結核プログラムについての村のリーダー、ボランティア・ワーカーを招いた説明会をロスパロスで開催し、AFMET スタッフ2名も出席した。

7月6日に DHS で開催された政府結核プログラムの四半期評価では、DHS と AFMET が協力して行ったこの結核プログラムがラウテン県の目標カバー率を飛躍的に高めたことに対して高い評価を受け、引き続き結核患者のスウィーピングを行ってほしいとの要望があった。

9月24、25日には保健省主催のメディカルスタッフを対象とした政府結核プログラムのリフレッシュトレーニングに AFMET スタッフ1名が出席し、12月と2月には再びスウィーピングを行った。

第1～3回のスウィーピング結果は以下の通り。

回	日付	地域/世帯	陽性	疑い	バウカウ搬送	協力
1	7月20～8月2日	Aldeia Caulutur, Bauro/213世帯	1名	8名	2名(陽性)	CHW6名 DHS
2	12月10～22日	Aldeia Somocho, Nanafoe, Sepelata, Irarafai /450世帯	2名	28名	1名(陰性)	CHW6名
3	2月24～25日	Aldeia Luarai/101世帯	0名	5名	2名	CHW3名

また、リキサ県で結核プロジェクトを実施している NGO Klibur Domin へのスタディーツアーを DHS が企画し、AFMET スタッフ3名が参加した。ツアーは6月10日～12日にかけて行われ、スウィーピングの実施方法やボランティアの働き、検査システム等今後の AFMET の結核プロジェクトを実施していく上で必要なスタッフの技術向上につながった。

#### (5) 予防接種キャンペーンへの協力

6月15～26日にかけて行われた政府予防接種キャンペーンに AFMET から看護師1名と車をサポートした。

#### (6) クリニックの運営

今年度も、週3日(月曜日、火曜日、金曜日)に AFMET クリニックを開いた。

看護師の慢性的な不足、人材確保が難しいことから、ロスパロス国立病院からパートタイム看護師を雇用した。

四半期ごとの来院数等は以下の通り。詳細は資料1、2参照。

##### 1) 4～6月期

来院患者数:1,922名

主な疾患名:マラリアの疑い23.3%, 上気道感染20.3%, 下痢 3.7% その他 35.7%

5歳未満:465名 5歳以上:1,457名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者9名

リフェラル件数:44件

##### 2) 7～9月期

来院患者数:1,362名

主な疾患名:マラリアの疑い25.6%, 上気道感染24.5%, 下痢3.2% その他37.9%

5歳未満:337名 5歳以上:951名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者10名

リフェラル件数:62件

##### 3) 10～12月期

来院患者数:1,162名

主な疾患名:マラリアの疑い39.6%, 上気道感染21.0%, 下痢3.6% その他38.4%

5歳未満:258名 5歳以上:904名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者9名

リフェラル件数:36件

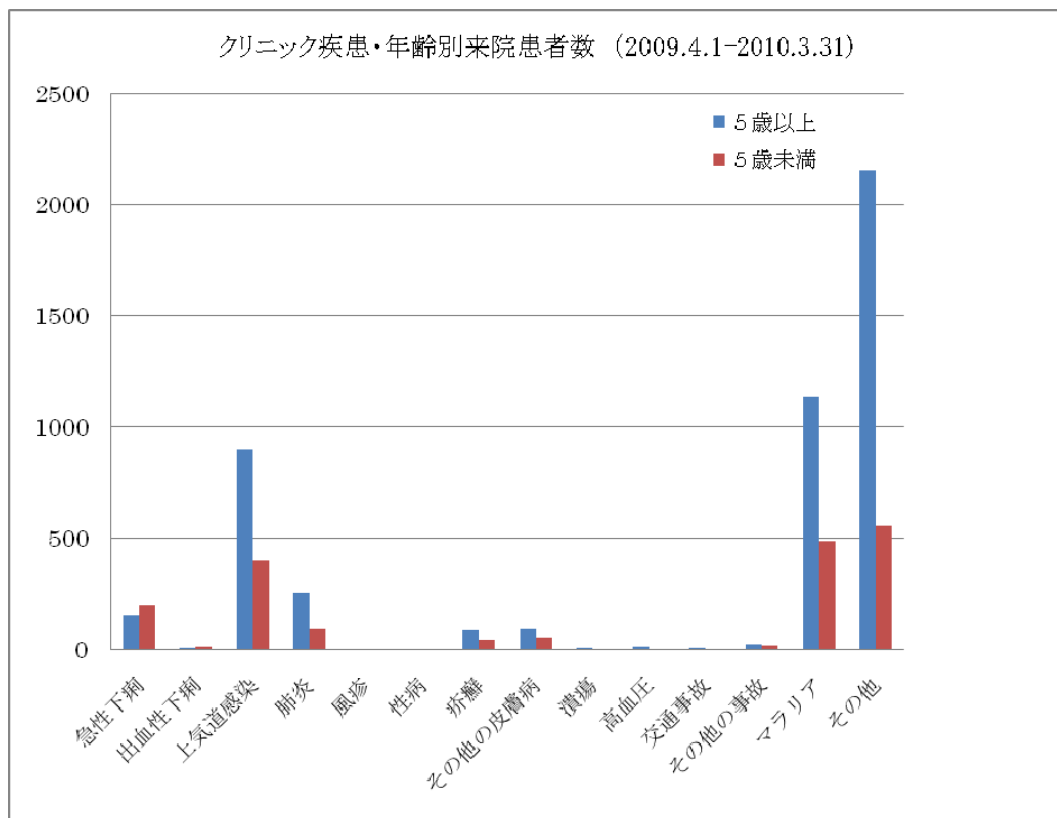
##### 4) 1～3月

来院患者数:1,811名

主な疾患名:マラリアの疑い31.3%, 上気道感染16.9% 下痢12.8% その他37.8%

5歳未満:445名 5歳以上:1,366名  
 AFMET のクリニックで治療中の結核患者8名  
 リフェラル件数:20件

資料1:クリニックの状況



資料2:リフェラルの状況

①村別リフェラル件数

村	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
Trisula		2	1	1		4			3	2	3		16
Assalaino	5	3	6	6	6	6	11	3	1	3	2	3	55
Luarai	1				2	2	2		5	1			13
Rasa	2	1		4	3			1		1			12
Fuiloro	3	1	1		6	1							12
Maulo						1		1					2
Puno					1								1
Bauro					3								3
Cauluturu	1	1		1		1	2	2		1			9
Titilari													0
Irarafai	3	1			1	1						1	7
Sepelata													0



Somocho													0
Motara	1			1	1	1	2						6
Nanahoe		1											1
Pitireti		3	2	1	1	1						1	9
Pailara	2				1								3
Com			1				1	1				2	5
Mahina1													0
others		2		1	2	2		1					8
計	18	15	11	15	27	20	18	9	9	8	5	7	162

②疾患別リフェラル件数

疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
マラリア 疑い	3	3	1	3	3	2	4		4	2	1		26
下痢													0
上気道感 染		2	1	1		1				1			6
出産	5	3	1	4	7	5	3	6		1		1	36
外傷	1	1	2		4	3	2					1	14
喘息		1		2		3	2				1		9
歯痛		1			1								2
頭痛							2		1				3
事故	5	1	1	3	3	2	3	1	2	3	1	2	27
その他	4	3	5	2	9	4	2	2	2	1	2	3	39
計	18	15	11	15	27	20	18	9	9	8	5	7	162

③処置別リフェラル件数

処置	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ロスバロス病院へ 搬送	12	9	6	9	17	11	12	9	1	3	1	5	95
クリニックにて 手当て	6	6	4	3	9	4	2		6	3	4	2	49
患者宅訪問			1	3	1	5	4		2	2			18
その他													0
Total	18	15		15	27	20	18	9	9	8	5	7	162

④年齢別リフェラル件数

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0~4		2	3		1	1	2		1	1			11

5~20	4	6	2	7	9	5	4	1	3	3	2	1	47
21~40	12	4	4	3	13	12	9	7	3	4	2	3	76
41~60		3	2	2	4	2	1	1	2			2	19
61<	2			3			2				1	1	9
計	18	15	11	15	27	20	18	9	9	8	5	7	162

## V 人材の育成・研修事業

### (1) スタディーツアー

新しい試みとして、スタディーツアーを実施した。小規模のツアーであったが、CG の活動、薬草トレーニング、SISCa の見学など AFMET の活動を紹介する良い機会となり、今後の支援やツアー実施などにつなげることができた。

実施期間:2009年9月12日(土)~2009年9月21日(月)

参加者:2名

### (2) 他団体(NGO)との協働

AFMET の活動の充実に向け、他 NGO と積極的に協働した。

<AFMET と協働している主な NGO、AID>

#### ・NGO

SHARE(日本)、Medicos do Mundo Portugal(ポルトガル)、Concern(アイルランド)、Plan-International(英国)、YayasanHAK(東ティモール)、Alola Foundation(オーストリア)、Fraterna(東ティモール)、LOL(米国)、NGO FORUM(東ティモール)、Water Aid(オーストラリア)、聖母訪問会メハラ修道院、ドンボスコフィロロ(サレジオ会)

#### ・AID(国外政府援助)

RWSSP(オーストリア)、DAI(米国)

### (3) 政府関係機関

日本大使館

独立行政法人 日本国際協力機構

国連世界食糧計画

世界保健機構

政府インフラ省水道課(SAS)

政府経済開発省ビジネス課(CDE)

政府観光商業産業省(MTCI)

政府保健省(MoH)

ラウテン県県庁(Administrasaun)

ラウテン県保健局(DHS)

ラウテン県教育局(Edukasaun)

### (4) スタッフキャパシティビルディング

9月に AFMET アドバイザーであるフィリップ氏に活動評価を依頼するとともにスタッフへのキャパシティビルディング(能力強化)を行った。内容は、プロジェクトとは何か、プロポーサルの書き方、調査、評価の仕方等。また、Leuro 村と Lorel 村にてコミュニティミーティングを行い、スタッフ1名がメインファシリテーター(通訳兼)として参加、2名が副ファシリテーターとして参加した。

## VI その他の活動

### (1)AFMET10周年記念式典

11月8日に AFMET(現地)において10周年記念式典を催した。主賓として在東ティモール日本大使の北原巖男氏と大使夫人、国際協力機構(JICA)東ティモール所長の榎本氏、ラウテン県知事、ラウテン県保健局長、東ティモール警察署長、国連文民警察署長、聖母訪問会、ADM、サレジアンシスターズ、カノッサ会のシスター方、ドンボスコの神父様方を招いた。

また、AFMET のターゲットエリアの村長と地区長、AFMET の CHW(95名が参列)、NGO 関係者、保健行政関係者、など、AFMET の歩みに関わった多くの人々を招き、300名を超える参列があった。サレジオ会のジョゼ神父とAFMET 副理事長山口道孝師の共同司式でミサを行った。その後、AFMET のCG「FINI」のオープニングセレモニーを開催。FINI のリーダーであるカロリノ氏から挨拶、また、AFMET から勤続10年のプロジェクトオフィサー、ジョゼ氏を表彰した。その後、会食そして AFMET の10年の歩みの映像を流し、AFMET から日本に研修に派遣されたスタッフのジュベンシオ氏、アリノ氏、そして県保健局のアルフレッド氏そしてNGO Ica Tutunu のディレクター(当時)であるジュスティエーノ氏が日本での学び、体験などを発表した。

AFMETの活動内容紹介リーフレットを参加者全員に配布。また主賓に対して「AFMET 10 Aniversario」と織り込まれたオリジナルのタイスを贈呈した。

### (2)一時帰国

佐藤 邦子 2009年4月9日～5月10日  
渡邊 怜子 2009年11月20日～12月19日

### (3)報告会

2009年4月19日(日) カトリック城北橋教会(名古屋教区)(佐藤)  
2009年4月26日(日) カトリック平針教会(名古屋教区)(佐藤)  
2009年5月6日(水) 南山短期大学(佐藤)  
2009年12月2日(水) 会津若松ザベリオ学園(渡辺)  
2009年12月6日(日) カトリック津久井教会(横浜教区)(渡辺)  
2009年12月13日(日) カトリック大和教会(横浜教区)(渡辺)  
2009年12月14日(月) カリタス小学校(渡辺)  
2009年12月15日(火) 日本カトリック信徒宣教者会主催 午後のバラエティータイム(渡辺)

### (4)その他

- ・早稲田大学大学院生の高橋氏の研究(東ティモールの歴史について)に協力(2/1～7)
- ・NGO LOL(Land O Lake)からインターンの学生2名を受け入れ、1ヶ月間 AFMET で共に活動した。CG、PHC、クリニックなど全ての活動体験、最終日にスタッフの前で活動報告を行った。(7/3～31)

- ・JICA 大阪での研修に AFMET のパートナー NGO である Ica tutunu ディレクター(当時)のジュスティーン氏を送った。(8/9～9/26)
- ・山田満教授率いる早稲田大学グループ(20名)のスタディーツアー、東京大学の学生(2名)に対して AFMET の活動紹介、石鹼作成体験を行った。(8月)
- ・日本大使館主催展示会に CG「FINI」が出展参加した。(8/24～27)
- ・名古屋でのアジア保健研究所(AHI)研修に AFMET スタッフのアリノ氏、県保健局のアルフレッド氏を送った。(9/7～10/14)
- ・日本から AFMET 副理事長山口師率いるシスター3名のスタディーツアーを受け入れた。(9/12～19)
- ・日本大使館主催 天皇誕生日記念式典に参加、交流。AFMET コーディネーター小林氏が弟子のエリディオ君と一緒に空手披露。(12/11)
- ・日本大使主催新年祝賀会に参加、交流。(大使公邸)(1/17)
- ・クバン、スラバヤを訪問し、物資調達の視察。(2/20～24)
- ・日本大使館主催 ラウテン県文化交流会・映画上映会実施に協力した。小学校での文化交流会ではカルタ遊び、おりがみなど日本の伝統的な遊びの紹介、日本語教室、着物体験、空手披露などを行い、夜は日本アニメの代表作「ドラえもん」を上映した。(3/26～27)
- ・聖母訪問会メハラ修道院シスターとの交流
- ・オーストラリア信徒宣教師との交流
- ・サレジオ会の男子修道院、女子修道院の神父、シスター、ブラザーとの交流
- ・派遣者同士の日々の分かち合い

### 3. 調査活動

#### (1)カンボジア

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動、コンボンルアンでの活動、シェムリアップで活動の視察、調整をスタディーツアー等も兼ねて行った。

2009年 7月18日～ 7月27日	漆原比呂志、辻明美
2009年 7月30日～ 8月 9日	漆原比呂志
2009年11月30日～12月10日	漆原比呂志、辻明美
2010年 2月 7日～ 2月20日	漆原比呂志、辻明美
2010年 2月22日～ 3月 4日	漆原比呂志、辻明美

#### (2)タイ

チェンマイ DISAC を訪れ、現地での活動状況視察、調整を行った。

2009年 8月27日～ 8月30日	金山重之
2010年 1月22日～ 1月23日	漆原比呂志

#### (3)東ティモール

現地 AFMET を訪れ、事業の運営についての調整などを行った。

2009年 6月25日～ 7月 4日	金山重之
2009年11月 4日～11月13日	漆原比呂志
2010年 3月 8日～ 3月15日	漆原比呂志

#### 4. 研修

2009年度は信徒宣教師派遣候補者が2名となり、研修実施を見合わせた。

#### 5. 派遣

派遣候補者がいなかったため、新規派遣は行わなかった。

#### 6. 派遣候補者の募集と選考

2010年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2009年8月より開始した。

今年度は、応募者の獲得と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施し、全国から多くの参加を得て、JLMMの活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

派遣候補者募集説明会(JLMM活動報告会と併催)

##### 1) 福岡会場

日時:2009年6月6日(土)14時から

会場:カトリック福岡司教区 司教館新館5階

##### 2) 長崎会場

日時:2009年6月7日(日)14時から

会場:カトリック長崎大司教区 大司教館3階第1会議室

##### 3) 大阪会場:

日時:2009年7月12日(日)14時から

会場:カトリック大阪大司教区教区本部 事務局集会室

##### 4) 名古屋会場

日時:2009年9月6日(日)14時から

会場:カトリック南山教会 マリアホール

##### 5) 東京会場:

日時:2009年9月26日(土)14時から

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

また、派遣候補者には9名の応募があり、2009年11月23日(月)に派遣候補者選考試験を実施。3名の合格があった。

#### 7. 帰国黙想会

次のとおり帰国黙想会を行った

参加者:重富浩子(2009年12月31日付け任期満了 カンボジア派遣)

期間:2010年1月25日(月)～27日(水)

会場:イエズス孝女会葉山修道院

指導:シスター小野恭世(イエズス孝女会)

## 8. 午後のバラエティータイム

週末や祝祭日に集中しがちなイベントを多くの方々に参加いただける機会を設けるため、新しい試みとして平日日中に毎月1回様々なイベントを行った。

開催時期及び内容は次のとおり。なお、会場は主にフランシスコ会聖ヨゼフ修道院もしくは六本木フランシスカン・チャペルセンターを利用した。

	日付	会場	内容
4月	2009年4月21日(火)	聖ヨゼフ修道院	JLMM 活動報告
5月	2009年5月19日(火)	聖ヨゼフ修道院	アジア映画鑑賞会 「デック 子どもは海を見る」
6月	2009年6月16日(火)	チャペルセンター	トーク企画:カンボジアで生活する漆原隆一・恭子夫妻を囲んで
7月	2009年7月14日(火)	チャペルセンター	サクソ ミニコンサート～音楽バラエティ
8月	2009年8月18日(火)	チャペルセンター	夏休み学生ボランティア DAY
9月	2009年9月15日(火)	チャペルセンター	カンボジア映画鑑賞会 「アンコールの人々」
10月	2009年10月20日(火)	世田谷教会かまぼこギャラリー	高橋智史写真展「素顔のカンボジア」
11月	2009年11月17日(火)	聖ヨゼフ修道院	ゴスペル ミニコンサート
12月	2009年12月15日(火)	聖ヨゼフ修道院	渡邊怜子 東ティモール活動報告
1月	2010年1月19日(火)	チャペルセンター	ゴスペル ミニコンサート
2月	2010年2月16日(火)	チャペルセンター	シスター小野恭世の「親業」講座
3月	2010年3月23日(火)	聖ヨゼフ修道院	私たちのリバーズミッション 公開対談近藤西紀

## 9. 写真展

フォトジャーナリスト高橋智史氏とのコラボレーションにより、「素顔のカンボジア」と題し写真展を開催した。

カンボジアの家族、キックボクサー、伝統舞踊など様々なカンボジアの表情を切り取った35点の写真の展示とともに、フォトストーリー映像を制作。映像は随時来場者に公開するとともに、期間中高橋氏本人によるトークイベントを開催した。

イベント名:高橋智史写真展「素顔のカンボジア」

期間:2009年10月17日(土)～23日(金)

トークイベント:10月20日(火)14時～ (午後のバラエティータイム事業)

会場:カトリック世田谷教会 かまぼこギャラリー

## 10. ゴスペル

派遣地での派遣者と現地の方々との「つながり」と同様、日本国内においても「つながり」をもち、連帯していくことを目指し、2007年度創立25周年記念式典に向け結成したゴスペルクワイアを再結成した。

指導に布施多真美さん、嶋武万里子さんのお二人を迎え、月3回程度の練習を通じ、自分達らしいゴス

ペルクワイアを目指した。

練習会場: 六本木フランシスカン・チャペルセンター聖堂もしくは地下ホール

練習日: 4/16、4/24、5/8、5/28、6/11、6/25、7/9、7/16、8/6、8/21、9/4、9/17、10/1、10/15、11/5、11/20、12/3、12/18、2010/1/7、1/15、1/28、1/30

また、クワイアメンバーが勤務する川崎の施設から、クリスマスイベントへの出演を求められ、11名が2曲を熱唱した。

## 11. チャリティーコンサート

今年度は、次のとおりチャリティーコンサートを開催した。

～コミュニティー～

JLMM ゴスペルコンサート

日時: 2010年2月5日(金) 午後7時開演

会場: カトリック目黒教会 聖堂 (東京都品川区上大崎 4-6-22)

来場者数: 150名

## 12. CAMBODIA DAY

昨年度に引き続き、カンボジアスタディーツアー参加者の同窓会を兼ねた「CAMBODIA DAY」を企画、開催した。

当日は、一時帰国中の高橋真也によるカンボジア活動報告を行い、約90名の参加者とともにカンボジアでの体験や思い出を分かち合った。

開催日時: 2009年9月12日(土) 午後2時

開催会場: フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

参加者: 60名

## 13. 広報

(1) ミッション(ニューズレター)発行 他

ミッションNo.129～134 計6号を以下のとおり発行した。

No.	発行日	部数	内容
No.129	2009年5月26日	3,150部	・カンボジアからの手紙(高橋真也) ・新派遣者 初めての手紙(林愛子・濱田麻里) ・東ティモールからの手紙(渡邊怜子) ・お知らせ
No.130	2009年7月17日	3,150部	・カンボジアからの手紙(高橋真也) ・ティモールからの手紙(佐藤邦子) ・カンボジアからの手紙(重富浩子) ・お知らせ

No.131	2009年9月28日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイからの手紙(松本和歌子)</li> <li>・東ティモールからの手紙(渡邊怜子)</li> <li>・カンボジアからの手紙(濱田まり)</li> <li>・お知らせ</li> </ul>
No.132	2009年11月30日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアからの手紙(重富浩子)</li> <li>・グローバルフェスタレポート(事務局)</li> <li>・タイからの手紙(松本和歌子)</li> <li>・カンボジアからの手紙(林愛子)</li> <li>・カンボジア写真展開催</li> <li>・クリスマス募金のお願い</li> </ul>
No.133	2010年1月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアからの手紙(高橋真也)</li> <li>・東ティモールからの手紙(佐藤邦子)</li> <li>・スタディーツアーのご案内</li> <li>・チャリティーコンサートのご案内</li> <li>・「福音宣教」連載開始のお知らせ</li> </ul>
No.134	2010年3月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣を終えて(重富浩子)</li> <li>・JLMM ゴスペルコンサート開催!</li> <li>・イースター募金のお願い</li> <li>・2010年度派遣候補者研修開始のおしらせ。</li> <li>・「福音宣教」連載開始のお知らせ</li> </ul>

## (2) 広告掲載等

カトリック新聞 おおむね月1回年16回広告掲載。( )は掲載サイズ

2009年 4月19日	イースター募金(通常/2段5cm)
2009年 5月24日	活動報告と派遣募集説明会(通常/2段5cm)
2009年 5月31日	活動報告と派遣募集説明会(通常/2段5cm)
2009年 6月21日	スタディーツアー カンボジア参加者募集(通常/2段5cm)
2009年 7月19日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年 8月23日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年 9月27日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年10月11日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年10月18日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年10月25日	2010年度派遣候補者募集(通常/2段18cm)
2009年11月15日	クリスマス募金(大/3段1/4)
2009年12月13日	クリスマス募金(大/3段1/4)
2010年 1月24日	春休みスタディーツアー カンボジア参加者募集(通常/2段5cm)
2010年 2月21日	春休みスタディーツアー カンボジア参加者募集(通常/2段5cm)
2010年 3月21日	イースター募金(通常/2段5cm)
2010年 3月28日	イースター募金(通常/2段5cm)



### (3) チラシ配布

#### 1) 広報チラシ作成配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

平和祈念募金「愛のチカラを信じる」	20,000部作成(2008年7月)
クリスマス募金「食べ物は生きる力 信仰は生きる喜び」	20,000部作成(2008年11月)
イースター募金「その瞳の先にある夢」	20,000部作成(2009年2月)

#### 2) 広報用リーフレット作成配布

JLMM 活動紹介リーフレット(カラー、A4版三つ折)の内容を見直し、作成、配布した。(5,000部)

### (4) 新聞・雑誌記事掲載

2009年 4月19日	カトリック新聞 カンボジア学習ツアー 小中高生が「戦争」を知る旅
2009年 6月 1日	聖母の騎士6月号 日本カトリック信徒宣教会(JLMM)に魅せられて①
2009年 6月 1日	きずなNo.107 日本からのスタディーツアーに参加 (林愛子) 神様って本当にいるの? (濱田麻里)
2009年 7月 3日	聖母の騎士7月号 日本カトリック信徒宣教会(JLMM)に魅せられて②
2009年 9月 1日	きずなNo.108 今、この瞬間を味わって生きる (高橋真也)
2009年12月 1日	きずなNo.109 ごみ山に集まる子どもたちと共に (浅野美幸) 二つの出来ごと (高橋真也)
2010年 1月 1日	福音宣教2010年1月号 派遣の地で祈り願ったこと ともに生きることへの招待(漆原比呂志)
2010年 2月 1日	福音宣教2010年2月号 派遣の地で祈り願ったこと 愛することへの招待 (漆原比呂志・浅野美幸)
2010年 2月28日	カトリック新聞第4041号 信徒宣教会集う FABC 福音宣教局
2010年 3月 1日	きずなNo.110 水上村のしくみ (高橋真也) こんにちは!お久しぶりです!! (渡邊怜子)
2010年 3月 1日	福音宣教2010年3月号 派遣の地で祈り願ったこと いのちの見つめ方 (漆原比呂志・渡邊怜子)

## 14. 報告会・説明会・講演

### 活動報告会(全体)

2009年 4月18日(土)	日本カトリックボランティア連絡協議会・新潟大会 漆原比呂志
2009年 4月28日(火)	日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース講義 漆原比呂志
2009年 5月21日(木)	横浜雙葉総合学習高校2年生講義 漆原比呂志
2009年 6月 6日(土)	カトリック福岡司教区司教館 漆原比呂志
2009年 6月 7日(日)	カトリック長崎大司教区大司教館 漆原比呂志
2009年 6月15日(月)	目黒星美学園中学・高等学校講演 漆原比呂志
2009年 6月17日(水)	日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース講義 漆原比呂志
2009年 8月 9日(日)	横浜教区カトリック平和旬間の集いグループ討論リーダー 漆原比呂志

### カンボジア報告会

2009年 7月12日(日)	カトリック大阪大司教区教区事務局 杉村太郎
2009年 8月 9日(日)	京都教区奈良地区カトリック平和旬間講話 杉村太郎
2009年 8月23日(日)	新潟と習志野の青年合同練成会(新潟教区カトリック新潟教会) 高橋真也
2009年 9月 4日(金)	シスター向け報告会 聖パウロ女子修道会(乃木坂) 高橋真也
2009年 9月 5日(土)	カノッサ修道会 若者の集い(名古屋) 高橋真也
2009年 9月 6日(日)	カトリック南山教会(名古屋教区) 高橋真也
2009年 9月12日(土)	Cambodia day(六本木) 高橋真也
2009年 9月13日(日)	カトリック藤沢教会(横浜教区) 高橋真也
2009年 9月13日(日)	カトリック菊名教会(横浜教区) 高橋真也
2009年 9月20日(日)	カトリック菊名教会(横浜教区) 浅野美幸
2009年 9月26日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 浅野美幸
2009年10月 3日(土)	カトリック弘前教会(仙台教区) 浅野美幸
2009年10月 4日(日)	カトリック五所川原教会(仙台教区) 浅野美幸
2009年10月 8日(木)	聖心侍女修道会(東京・五反田) 浅野美幸
2009年10月25日(日)	カトリック仁豊野教会(大阪教区) 杉村太郎

### タイ報告会

2009年10月13日(火)	コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院 松本和歌子
2009年10月17日(土)	カトリック水俣教会(福岡教区) 松本和歌子
2009年10月23日(金)	フェアトレードカフェ・アニパニ(福岡アジアセンター) 松本和歌子

#### 東ティモール報告会

2009年 4月19日(日)	カトリック城北橋教会(名古屋教区)	佐藤邦子
2009年 4月26日(日)	カトリック平針教会(名古屋教区)	佐藤邦子
2009年 5月 6日(水)	南山短期大学	佐藤邦子
2009年12月 2日(水)	会津若松ザベリオ学園	渡辺怜子
2009年12月 6日(日)	カトリック津久井教会(横浜教区)	渡辺怜子
2009年12月13日(日)	カトリック大和教会(横浜教区)	渡邊怜子
2009年12月14日(月)	カリタス小学校	渡邊怜子
2009年12月15日(火)	午後のバラエティータイム	渡辺怜子

#### 派遣募集説明会(再掲)

2009年 6月 6日(土)	カトリック福岡司教区 司教館新館5階
2009年 6月 7日(日)	カトリック長崎大司教区 大司教館3階第1会議室
2009年 7月12日(日)	カトリック大阪大司教区教区本部 事務局集会室
2009年 9月 6日(日)	カトリック南山教会 マリアホール
2009年 9月26日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

#### その他

2009年11月28日(土)	オリエンズ宗教研究所創立50周年式典出席	漆原比呂志
2010年 1月25日(月)	第1回アジア信徒宣教団体会議(活動報告)	漆原比呂志・高橋真也

### 15. バザー・イベント等への参加・企画協力

2009年 4月19日(日)	カトリック雪ノ下教会福祉バザー出展
2009年10月18日(日)	カトリック藤沢教会バザー出展
2009年10月25日(日)	カトリック三軒茶屋教会バザー出展
2009年10月 3日(土)・4日(日)	グローバル・フェスタ(日比谷公園)出展
2009年度(通年)	横浜雙葉中学高等学校 総合学習企画協力

### 16. スタディーツアー

諸団体からの依頼、会員や一般参加者に向けスタディーツアーの企画を行った。

#### (1) JLMMカンボジアスタディーツアー(Aコース)

2009年7月19日(日)～7月27日(月) 参加者11名

行程: プノンペン→コンポルアン→タオム→シェムリアップ

#### (2) JLMMカンボジアスタディーツアー(Bコース)

2009年7月30日(木)～8月9日(月) 参加者7名

行程: プノンペン→コンポンソム→コンポئلアン→タオム→シェムリアップ

(3) 専修大学 SIA カンボジアスタディーツアー

2010年2月7日(日)～20日(土) 参加者12名

行程: プノンペン→コンポئلアン→プノンペン→コンポンソム→タオム→シェムリアップ  
→バンコク

(4) JLMMカンボジアスタディーツアー(上智サッカー部)

2010年2月22日(月)～3月4日(木) 参加者11名

行程: プノンペン→コンポئلアン→バットアンバン→シェムリアップ→タオム

## 17. 会議

(1) 運営委員会

開催回	開催日	会場	議 題
第1回	2009年 6月22日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・任期延長申請について</li> <li>・タイ現地利用ノートブックパソコン購入について</li> <li>・2008年度事業報告(案)及び収支決算(案)について</li> <li>・JANIC(特定非営利活動法人国際協力 NGO センター)団体協力会員入会について</li> </ul>
第2回	2009年 9月28日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅野美幸一時帰国報告</li> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・任期延長申請について</li> <li>・2010年度派遣候補者募集について</li> <li>・その他(派遣について)</li> </ul>
第3回	2009年 12月17日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・任期延長申請について</li> <li>・次期運営委員について</li> <li>・今後の派遣候補者募集のあり方について</li> <li>・その他(チャリティーコンサートについて他)</li> </ul>
第4回	2010年 3月18日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・任期延長申請について</li> <li>・次期運営委員について</li> <li>・2010年度事業計画(案)及び収支予算(案)について</li> <li>・フェローズ制度(仮称)について</li> <li>・2010年度研修について</li> <li>・その他(JANIC 行動指針について)</li> </ul>

(2) ボランティア DAY 実行委員会

午後のバラエティータイムの8月の催しとして、学生を対象とした夏休みイベント「ボランティア DAY」を、実行委員会を組織し企画した。カンボジアの活動地ステンミエンチャイ地区でゴミの収集により生計を立てている家族の生活を体験し、教育の大切さや貧困について考え、学べるものとした。

委員:鈴木雄也、鈴木俊良、前田しおり、加藤碧、飯野瞳(敬称略)

会議:2009年7月2日(金)、7月28日(火)、8月12日(水)

### (3)CAMBODIA DAY 実行委員会

2009年9月12日開催の CAMBODIA DAY を実行委員会形式で開催した。

委員:對馬徹、町田春海、中村壮、許斐恵子、小塚めぐみ、岸原礼、高野愛、(敬称略)

会議:2009年9月3日(木)

### (4)グローバル・フェスタ実行委員会

2009年10月3日、4日に日比谷公園にて開催されるグローバル・フェスタ JAPAN2009 出展にあたり、JLMM 支援者を中心に実行委員会を発足。出展に向け企画、準備、実施した。

出展内容は協議の結果、活動紹介に重点をおくこととし、活動紹介映像を制作した。活動紹介はカンボジアでのステンミエンチャイ地区での活動、東ティモールでの活動に絞り、委員が出演者となり、自主制作を行った。また、SIA(専修大学国際協力サークル)のスタディーツアー記録映像の上映も行うほか、ゴスペル ミニコンサートも行い、好評を得た。

委員:中村壮、鈴木雄也、奥村麻衣、田名網恵子、對馬徹、許斐恵子、町田春海(敬称略)

会議:2009年9月4日(金)、9月9日(木)、9月17日(木)、9月24日(木)

#### ○グローバル・フェスタ JAPAN2009

期日:2009年10月3日(土)、4日(日)

会場:日比谷公園(東京都千代田区)

主催:外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター(JANIC)

## 18.所属団体等

2010年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。

日本カトリック司教協議会 公認団体 (2002年5月9日加盟)

特定非営利活動法人国際NGOセンター(JIANC)正会員 (2009年10月23日承認)

アジア司教協議会連盟福音宣教局 アジア信徒宣教団体会議(2010年1月24日参加)

# 財 産 目 録

日本カトリック信徒宣教者会  
2010年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預 金			
三菱東京UFJ銀行			
六本木支店 普通	4,373,022		
六本木支店 普通	1,112,618		
六本木支店 定期	4,768,707		
郵便振替口座	85,990		
流動資産合計		10,340,337	
2 固定資産			
有形固定資産			
什器備品			
パソコン3台	317,817		
無形固定資産			
電話加入権			
03-5414-0991	74,984		
固定資産合計		392,801	
資産合計			10,733,138
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金			
社会保険料	80,873		
流動負債合計		80,873	
負債合計			80,873
正味財産			10,652,265

# 貸借対照表

日本カトリック信徒宣教師会

2010年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
預金	10,340,337	
流動資産合計		10,340,337
2 固定資産		
什器備品	317,817	
電話加入権	74,984	
固定資産合計		392,801
資産の部合計		10,733,138
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	80,873	
流動負債合計		80,873
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	3,148,417	
当期正味財産増加額	7,503,848	
正味財産合計		10,652,265
負債及び正味財産合計		10,733,138

# 収支計算書

日本カトリック信徒宣教師会

自2009年4月1日 至2010年3月31日

NO. 1  
(単位:円)

## 収入の部

科 目 名		09年度予算A	09年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考
収 入 の 部	会費収入	1,700,000	1,735,000	35,000	102.1%	
	寄付金収入	18,000,000	23,783,282	5,783,282	132.1%	
	助成金等収入	6,400,000	6,362,798	△ 37,202		大阪教区, AFMET
	受取利息	1,000	1,287	287	128.7%	
	雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
当年度収入合計(A)		26,111,000	31,882,367	5,771,367	122.1%	
前年度繰越金(B)		2,300,000	2,696,541	396,541	117.2%	
収入合計 (C)=(A)+(B)		28,411,000	34,578,908	6,167,908	121.7%	

## 支出の部

科 目 名		09年度予算A	09年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考	
支 出 の 部	運 賃 費	1. 人件費 (D)	7,651,000	7,654,473	3,473	100.0%	
		給料手当	6,144,000	6,144,000	0	100.0%	2名分
		通勤手当	588,000	587,760	△ 240	100.0%	
		退職金	0	0	0		
		法定福利費	905,000	909,179	4,179	100.5%	
	営 業 費	福利厚生費	14,000	13,534	△ 466	96.7%	健康診断
		2. 事務運営費 (E)	1,851,000	1,743,029	△ 107,971	94.2%	
		会議会場費	5,000	0	△ 5,000	0.0%	
		会議食事代	5,000	4,950	△ 50	99.0%	派遣候補者選考
		会議旅費交通費	0	0	0		
		電話料	400,000	386,843	△ 13,157	96.7%	
		郵便切手送料	150,000	156,450	6,450	104.3%	
		印刷コピー代	150,000	94,913	△ 55,087	63.3%	
		備品費	0	0	0		
		旅費交通費	70,000	27,700	△ 42,300	39.6%	
		消耗品費	120,000	45,016	△ 74,984	37.5%	
		リース料	726,000	727,050	1,050	100.1%	
		支払手数料	100,000	190,657	90,657	190.7%	振替手数料等
		諸会費	40,000	25,500	△ 14,500	63.8%	司教協議会公認団体, JANIC
		水道光熱費	60,000	68,200	8,200	113.7%	
	維持管理費	5,000	0	△ 5,000	0.0%		
	慶弔費	20,000	15,750	△ 4,250	78.8%		
	運営費支出合計 (F)=(D)+(E)		9,502,000	9,397,502	△ 104,498	98.9%	
	活 動 費	研修費	611,000	347,601	△ 263,399	56.9%	
		派遣活動費	9,640,000	7,328,145	△ 2,311,855	76.0%	
調査研究費		3,645,000	3,353,538	△ 291,462	92.0%	職員1名分含む	
広報活動費		3,220,000	3,548,910	328,910	110.2%		
行事費		155,000	343,748	188,748	221.8%		
活動費支出合計 (G)		17,271,000	14,921,942	△ 2,349,058	86.4%		
運営費活動費計 (H)=(F)+(G)		26,773,000	24,319,444	△ 2,453,556	90.8%		
財務支出合計 (I)		0	0	0			
当年度支出合計 (J)=(H)+(I)		26,773,000	24,319,444	△ 2,453,556	90.8%		
当期収支差額 (K)=(A)-(J)		△ 662,000	7,562,923	8,224,923	-1142.4%		
次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J)		1,638,000	10,259,464	8,621,464	626.3%		



# 正味財産増減計算書

日本カトリック信徒宣教者会

2009年4月1日から2010年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 増加の部 1 資産増加額 当期収支差額 増加額合計	7,562,923	7,562,923	7,562,923
II 減少の部 1 資産増加額 減価償却費 減少額合計	59,075	59,075	59,075
当期正味財産増加額 当初正味財産額 期末正味財産合計額			7,503,848 3,148,417 10,652,265

## 計算書類に対する注記

### 1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

### 2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
預金	2,772,032	10,340,337
合計	2,772,032	10,340,337
預り金	75,491	80,873
合計	75,491	80,873
次期繰越収支差額	2,696,541	10,259,464

### 3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	前期末残高	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	668,733	376,892	59,075	△ 350,916	317,817
合計	668,733	376,892	59,075	△ 350,916	317,817


## 監査意見書

日本カトリック信徒宣教師会会則第13条第4項の規定に基づき、2009年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2010年5月17日

日本カトリック信徒宣教師会

監事 (財務)

徳 隆 

2010年6月23日

日本カトリック信徒宣教師会

監事 (事業)

荒川 治 